

年少労働調査資料 第74集

勤労青少年指導等に関する 実 態 調 査

—— 勤労青少年ホーム館長・勤労青少年
ホーム指導員活動 ——

結果報告書



昭和 59 年 6 月

労働省婦人少年局

勤労青少年指導等に関する 実 態 調 査

——勤労青少年ホーム館長・勤労青少年
ホーム指導員活動——

結果報告書

昭和 59 年 6 月

労働省婦人少年局

は し が き

労働省婦人少年局では勤労青少年行政を推進するため各種の実態調査を実施している。

昭和58年度は勤労青少年ホームの館長、指導員に関する調査を行った。ホームの実態は多様であるが、今回の調査によってその実情、活動状況等を把握し、今後の行政運営に資することとしたものである。

本調査に御協力下さった館長、指導員及び関係行政機関の各位に深く感謝申し上げる次第である。

昭和59年6月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き

I 調 査 の 概 要	1
II 調査結果の概要	4
III 調 査 結 果	9
1 勤労青少年ホームの状況	9
(1) 所在市町村の人口と勤労青少年数	9
(2) 勤労青少年ホームの職員数	9
2 勤労青少年ホームの館長の活動状況	9
(1) 調査対象者の属性	9
イ 性	9
ロ 年 齢	9
ハ 専任、兼任状況	9
ニ 勤続年数	11
(2) 勤労青少年ホームの運営に関すること	11
イ 運営委員会	11
(イ) 機 能	11
(ロ) ホーム利用者の参加	11
(ハ) 開催回数	12
ロ ホーム主催行事	12
(イ) 定期講座	12
(ロ) 随時講座	12
(ハ) 人気のある主催行事	12
① スポーツ講座	12
② 各種講座	12
③ 講座以外の行事	12
ハ クラブ・サークル活動	12
(イ) クラブ・サークル数	12
(ロ) クラブ・サークル構成実人員	15
(ハ) クラブ・サークル活動に対する今後の方針	15

ニ 相談活動	15
ホ 当面している課題	18
ヘ 地域社会との交流と方法	19
ト 職員の研修、講習等	20
(3) 現代の勤労青少年の特徴について	
— 10年ぐらい前と比べて —	21
3 ホーム指導員の活動状況	22
(1) 調査対象者の属性	22
イ 性	22
ロ 年 齢	23
ハ 専任、兼任状況	23
ニ 経験年数	23
ホ ホーム指導員資格講習受講及び受講時期	23
(2) 青少年指導に関する資格の有無及び資格名	23
(3) 青少年指導に関する講習、研修、研究会等への参加状況	24
(4) ホーム指導員の役割分担	24
(5) ホーム指導員の活動状況	25
イ 主な活動内容	25
ロ 活動へのかかわり方	27
ハ 今後の活動の中心	27
(6) ホーム指導員としての悩み(MA)	29
(7) ホーム指導員になってよかったと思うとき(MA)	30
(8) 現代の勤労青少年の特徴	
— 5年ぐらい前と比べて —	31

図 表 目 次

表 1	ホーム館長、性年齢別構成	10
図 1	ホーム館長地区別、専兼任状況	10
表 2	ホーム館長の勤続年数	11
表 3	希望が多く今後も力を入れたいスポーツ講座	13
表 4	クラブ・サークル数	13
図 2	希望が多く今後も力を入れたい各種講座	14
図 3	人気のある行事	15
表 5	クラブ・サークルを構成している実人員	16
図 4	クラブ・サークル活動に対する今後の方針 — クラブ・サークル数 —	16
図 5	クラブ・サークル活動に対する今後の方針 — 活動に対するかかわり方 —	16
図 6	クラブ・サークル活動に対する今後の方針 — リーダーの育成 —	17
図 7	勤労青少年からの相談受理の内容	17
表 6	館長として現在当面している課題	18
図 8	最も効果があると思われる方法 — 地域社会との交流 —	19
図 9	ホーム職員として資質向上につながる研修、講習受講の有無と 受講予定なしの場合の理由	19
図 10	資質向上につながる研修、講習開催地等に対する意見	21
図 11	現代の勤労青少年の特徴 — 10年ぐらい前と比べて —	21
表 7	年齢階級別、館長のみた現代の勤労青少年の特徴 — 10年ぐらい前と比べて —	22
表 8	何等かの青少年指導に関する資格別割合	23
図 12	青少年指導に関する講習、研修、研究会参加回数の割合	24
図 13	青少年指導に関する講習、研修、 研究会参加日数(1回の参加日数)の割合	25

図14	ホーム指導員同志の間の役割分担の有無	
	— ホーム指導員が複数いる場合 —	25
図15	ホーム指導員の主な活動内容	26
表9	ホーム指導員のホーム活動への主なかかわり方	28
図16	ホーム指導員の今後の活動中心としていきたい活動内容	29
図17	ホーム指導員の職務上の悩み	30
表10	経験年数別、ホーム指導員の職務上の悩み	31
図18	ホーム指導員になってよかったと思うとき	32
図19	現代の勤労青少年の特徴	
	— 5年ぐらい前と比べて —	32
表11	年齢別ホーム指導員のみた現代の勤労青少年の特徴	
	— 5年ぐらい前と比べて —	33

(巻 末 統 計 表)

表Ⅰ-1	勤労青少年ホーム所在市町村の人口及び勤労青少年数	37
表Ⅰ-2	勤労青少年ホームの職員数	38
表Ⅰ-3	館長の性、年齢、専任、兼任別及び 勤労青少年ホームでの勤続年数	40
表Ⅰ-4	勤労青少年ホーム運営委員会の状況	42
表Ⅰ-5	昭和58年度中に実施及び実施予定の各種講座数	44
表Ⅰ-6	人気のあるスポーツ講座(随時に開催するものを含む)(MA)	46
表Ⅰ-7	スポーツ講座を除く各種講座(随時開催を含む)中 人気のある講座名(MA)	48
表Ⅰ-8	特に人気のあるホーム主催行事(各種講座を除く)(MA) — 過去1年間 —	50
表Ⅰ-9	クラブ・サークル数(昭和58年11月1日現在)	52
表Ⅰ-9-(2)	クラブ・サークルを構成している実人員 (昭和58年11月1日現在)	53
表Ⅰ-10	クラブ・サークル活動に対するホームの今後の方針	54
表Ⅰ-11	ホームにおける相談活動	56
表Ⅰ-12	館長として現在当面している課題(MA)	58
表Ⅰ-13	ホームと地域社会との交流の状況	60
表Ⅰ-14	職員の研修・講習等に関する事	62
表Ⅰ-15	館長のみた現代の勤労青少年の特徴(MA) — 10年ぐらい前と比べて —	64
表Ⅰ-16	年齢階級別、館長のみた現代の勤労青少年の特徴(MA) — 10年ぐらい前と比べて —	66
表Ⅱ-1	勤労青少年ホーム指導員の性、年齢、専任、兼任別及び経歴年数	68
表Ⅱ-2	青少年指導に関する資格の有無等	70
表Ⅱ-3	青少年指導に関する講習会、研修会、研究会等への参加状況 及びホーム指導員が複数いる場合の役割分担の有無等	72
表Ⅱ-4	勤労青少年ホーム指導員の主な活動内容	74
表Ⅱ-5	勤労青少年ホーム指導員の指導の立場(活動への主なかわり方) 別、主な活動内容(MA)	76

表Ⅱ-6	今後、ホーム指導員活動の中心としていきたい活動内容（MA）	78
表Ⅱ-7	ホーム指導員の職務上の悩み（MA）	80
表Ⅱ-8	経験年数別、ホーム指導員の職務上の悩み（MA）	82
表Ⅱ-9	ホーム指導員になってよかったと思うとき（MA）	84
表Ⅱ-10	ホーム指導員のみた現代の勤労青少年の特徴（MA）	
	— 5年ぐらい前と比べて —	86
表Ⅱ-11	年齢階級別、ホーム指導員のみた現代の勤労青少年の特徴（MA）	
	— 5年ぐらい前と比べて —	88

I 調査の概要

1 調査の目的

勤労青少年ホームは、勤労青少年福祉法(昭和45年法律第98号)第15条に基づく勤労青少年のための福祉施設で、現在約500所に地方公共団体が国の補助を受けて設置している。

本調査は、勤労青少年ホームの館長・指導員の活動の実態等を統計的に明らかにするとともに、勤労青少年ホームの館長・指導員を通して勤労青少年の余暇活動の一端を把握し、今後の勤労青少年福祉対策に資することを目的として実施した。

2 調査の範囲

地 域 : 全 国

3 調査対象

(1) 勤労青少年ホーム館長：昭和56年度末までに地方公共団体が、国の補助を受けて設置した 465 所の勤労青少年ホームの館長(全員)

(2) 勤労青少年ホーム指導員：① 労働省が実施する「勤労青少年ホーム指導員資格講習」を受けた者であって、(1)の勤労青少年ホームにおいて現に指導員として勤務している者(全員)。② ①の該当者がいない勤労青少年ホームについては、「勤労青少年ホーム利用者に対する相談及び指導」の業務を担当している中核的職員 1 名

合計 約 500 名

4 調査事項

(1) 勤労青少年ホーム館長票

- イ 勤労青少年ホームの名称及び所在地並びに勤労青少年ホーム所在市町村の人口、勤労青少年数及び主な産業
- ロ 勤労青少年ホームの職員数
- ハ 勤労青少年ホームの登録者数及び利用者数
- ニ 勤労青少年ホーム館長の性、年齢、専任・兼任別勤続年数、前歴等
- ホ 勤労青少年ホーム運営委員会の状況
- ヘ 勤労青少年ホームの主催行事

- (イ) 各種講座数及び最も受講希望の高い講座名
- (ロ) 各種講座を除く最も人気の高い行事名
- ト クラブ・サークルの種類別数及び構成実人員
- チ クラブ・サークル活動に対する勤労青少年ホームの方針
- リ 個別相談の受理状況
- ヌ 勤労青少年ホーム館長の当面している課題
- ル 勤労青少年ホームと地域社会との交流の有無とその内容
- ヲ 勤労青少年ホームの職員の研修、講習等
- ワ 現代の勤労青少年の特徴
- (2) 勤労青少年ホーム指導員票
 - イ 勤労青少年ホーム指導員の性、年齢、専任・兼任別及び勤続年数
 - ロ 青少年指導に関する資格の有無及び青少年指導に関する講習・研修・研究会等への参加の状況
 - ハ 複数の勤労青少年ホーム指導員がいる場合の役割分担等の状況
 - ニ 勤労青少年ホーム指導員の活動状況等
 - (イ) 主な活動内容
 - (ロ) 活動方法
 - (ハ) 今後の勤労青少年ホーム指導員の活動の中心となるとと思われる活動内容
 - (ニ) 勤労青少年ホーム指導員としての悩みの内容
 - (ホ) 勤労青少年ホーム指導員になってよかったと思うことの内容
 - ホ 現代の勤労青少年の特徴

5 調査対象期日

原則として昭和58年11月1日現在

6 調査実施期間

昭和58年11月1日～11月20日まで

7 調査機関

労働省婦人少年局 ―― 各婦人少年室

8 調査方法

通信自計

9 集計方法

労働省婦人少年局において集計した

Ⅱ 調査結果の概要

1 勤労青少年ホームの状況

(1) 所在市町村の人口と勤労青少年数

勤労青少年ホームの所在する市町村を人口別にみると、5万人未満43.7%、5～10万人未満24.5%で10万人未満市町村が約7割となっている。

所在市町村の勤労青少年数でみると、5,000人未満55.7%が最も割合が大きい。

(2) 勤労青少年ホームの職員数

勤労青少年ホーム(465ホーム)の職員数は、館長を除き1,589人で、うち勤労青少年ホーム指導員(以下「ホーム指導員」という)は1,250人となっている。1ホーム平均の職員数は3.5人である。

2 勤労青少年ホームの館長の活動状況

(1) 調査対象者の属性

イ 性

男子99.6%、女子0.4%である。

ロ 年齢

50～59歳が52.7%で圧倒的に多い、40～49歳が28.2%である。

ハ 専任・兼任状況

専任45.4%、兼任54.6%となっている。

ニ 勤続年数

1～3年未満が40.4%である。

(2) 勤労青少年ホームの運営に関すること

イ 運営委員会

(イ) 機能

「有効に機能している」と「まあまあ機能している」がそれぞれ25.4%、35.5%で、両者合せて60.9%がその有用性を認めている。

(ロ) ホーム利用者の参加

「ホーム利用者が入っている」72.3%、「メンバーとして入っていないがオブザーバーとして参加している」2.6%で、4分の3が参画している。

イ) 開催回数

「定例」開催は1～2回が多く、2回開催 33.8%、1回開催が 33.3%となっている。

ロ ホーム主催行事

イ) 定期講座

5～9回が 43.9%で最も多い。

ロ) 随時講座

1～4回が 46.9%と最も多い。

イイ) 人気のある講座、行事

① スポーツ講座 (MA)

スポーツ講座(含随時講座)の中で卓球が 63.2%と最も多い、次いでバドミントン 62.2%となっている。

② 各種講座 (MA)

スポーツ講座を除く各種講座(含随時講座)では、料理 74.0%、華道 60.6%、茶道 49.5%となっている。

③ 講座以外の行事

過去1年間のうち、特に人気があったものとして、文化祭 41.5%、スポーツ対抗試合 38.5%、勤労青少年の日の行事 36.3%、クリスマスパーティ 36.3%等が挙げられている。

ハ クラブ・サークル活動

イ) クラブ・サークル数

スポーツに関するものが 2,203 と最も多く、次いで音楽に関するもの 992 となっている。

ロ) クラブ・サークル構成実人員

スポーツに関するものでは 56,124 人、次いでダンスが 14,136 人となっている。

イイ) クラブ・サークル活動に対する今後の方針

「増やしていきたい」とする割合が 76.3%と圧倒的に高い。

かかわり方では、「アドバイザー又はオブザーバー的」が 61.5%でその割合が高い。

クラブ・サークルのリーダー育成については、「積極的に育成する」が 50.5%で、その割合が高い。

ニ 相談活動

過去1年間の相談受理について「ある」が 76.1%、「ない」が 23.9%である。

相談延件数は、9,733件となっている。

相談内容(MA)は、「クラブ・サークル活動に関すること」が85.6%と最も割合が高い、次いで「恋愛、結婚に関すること」(63.6%)等が挙げられている。

ホ 当面している課題(MA)

「事業主及び事業主団体並びに地域一般に対するホームのPRの徹底と密接な連携」を挙げるものが54.8%と最も高い割合になっている。次いで「利用者の自主性促進と指導の在り方」(39.8%)が挙げられている。

ヘ 地域社会との交流と方法

「図っている」が89.9%、「図っていない」が10.1%となっている。

交流の最も効果がある方法としては、「市の広報紙(誌)によるホーム主催行事等の呼びかけ」が73.0%で最も高い。次いで「文化祭(ホーム祭)、映画、講演会等のホーム主催行事への一般住民の参加」が42.3%となっている。

ト 職員の研修、講習等について

勤労青少年ホーム指導員資格講習未受講者について、昭和59年度の受講予定は、「予定がある」が32.5%となっている。

予定がない場合の理由として最も割合の高いのが、「旅費等予算がない」(37.7%)である。

勤労青少年ホーム指導員資格講習会以外にホーム職員として資質向上につながる研修、講習の受講については、「予定がある」が75.9%となっている。

予定がない場合の理由として最も割合の高いのは「旅費等、予算がない」(59.1%)である。

受講させる予定がある場合の開催地等に対する意見では、「同一都道府県で行うのがよい」が最も割合が高く65.2%となっている。

(3) 現代の勤労青少年の特徴について

— 10年くらい前と比べて —

現代の勤労青少年一般の特徴として挙げられている主なものは次のとおりである。協調性が弱くなった45.6%、積極性が弱くなった37.0%、合理性が高まった29.0%。

3 ホーム指導員の活動状況

(1) 調査対象者の属性

イ 性

男子91.8%、女子8.2%である。

ロ 年 齢

20～34歳が48.8%となっている。

ハ 専任、兼任状況

専任は74.6%となっている。

兼任の場合の通常勤務場所は、勤労青少年ホームとするものが66.9%である。

ニ 経験年数

1～3年未満が37.9%である。

ホ 勤労青少年ホーム指導員資格講習受講並びに受講時期

受講者は57.9%で、昭和55年以降の受講が68.4%となっている。

(2) 青少年指導に関する資格の有無並びに資格名

勤労青少年ホーム指導員資格以外の青少年指導に関する資格を持っている者は29.1%で、教員免許を持つものが48.4%と最も多い。

(3) 青少年指導に関する講習、研修、研究会等への参加状況

「過去1年間に、青少年指導に関する講習、研修、研究会等に参加したことがある」が62.1%で、参加回数は1回が45.8%、で最も多い。

(4) ホーム指導員の役割分担

調査対象者以外に、ホーム指導員がいるものは64.5%となっている。

ホーム指導員同士の役割分担については、「ある」が44.6%となっている。

(5) ホーム指導員の活動状況

イ 主な活動

「ホーム主催行事」では、「各種講習会、講演会、座談会及び映画、演劇、音楽会等に関すること」が37.4%で最も割合が高くなっている。

「ホーム利用者に対する助言、指導等」では、「クラブ・サークル活動等、勤労青少年の自主的な活動に対する各種の助言、指導に関すること」が57.8%になっている。

「その他」の主な活動として、「利用者がホームを利用しやすく、また利用意欲を誘発しうるように、館内、諸設備等の整備に関すること」が36.1%となっている。

ロ 活動へのかかわり方

総合的にみて、「ホーム主催行事」については、指揮的立場をとる割合が高い。

「ホーム利用者に対する助言、指導等」については助言的立場をとる者が多いが、ホーム利用者相互の親睦交流に関することなどで調整的立場をとる割合も比較的高い。

ハ 今後の活動の中心

「リーダーの発掘と育成」「ホーム主催の講座、教室の充実」を挙げ、それぞれ43.9%、42.8%となっている。

(6) ホーム指導員としての悩み (MA)

「ホーム利用者を何とかして増やしたい」53.3%、「予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこたえられない」52.5%等を挙げている。

(7) ホーム指導員になってよかったと思うとき (MA)

「ホーム利用者と打ち解けた雰囲気交流しているとき」が64.9%で最も高く、次いで、「クラブ・サークル活動、或いはホーム主催行事等の準備のために、ホーム利用者が一生懸命に取り組んでいる姿に触れたとき」(55.9%)となっている。

(8) 現代の勤労青少年の特徴について

— 5年ぐらい前と比べて —

現代の勤労青少年一般の特徴として挙げられている主なものは次のとおりである。

「協調性が弱くなった」48.0%、「積極性が弱くなった」49.1%、「合理性が高まった」26.7%

Ⅲ 調 査 結 果

1 勤労青少年ホームの状況

(1) 所在市町村の人口と勤労青少年数

勤労青少年ホームの所在する市町村を人口別にみると、5万人未満43.7%、5～10万人未満24.5%、10～30万人未満16.8%、30～50万人未満5.6%、50～100万人未満2.4%、100万人以上7.1%となっている。

所在市町村の勤労青少年数でみると、5,000人未満55.7%、5,000～1万人未満15.7%、1万～5万人未満19.1%、5～10万人未満3.2%、10万人以上6.2%となっている。

(2) 勤労青少年ホームの職員数

勤労青少年ホーム(465ホーム)の職員数は、館長を除き1,589人で、うちホーム指導員は約8割の1,250人となっている。1ホーム平均では3.5人、うちホーム指導員は2.7人である。

ホーム指導員について、常勤・非常勤・専任・兼任別にみると、常勤専任は706人(56.5%)、常勤兼任349人(27.9%)、非常勤専任142人(11.4%)、非常勤兼任53人(4.2%)となっている。ホーム指導員以外の職員は、それぞれ169人(49.8%)119人(35.1%)、27人(8%)、24人(7.1%)で、常勤、専任の割合は、ホーム指導員の方が高くなっている。

2 勤労青少年ホームの館長の活動状況

(1) 調査対象者の属性

イ 性

館長の性別構成は、男子99.6%(463人)、女子0.4%(2人)である。

ロ 年 齢

館長を年齢階級別にみると、30～39歳2.6%、40～49歳28.2%、50～59歳52.7%、60歳以上15.5%となっている(表1)。

ハ 専任、兼任状況

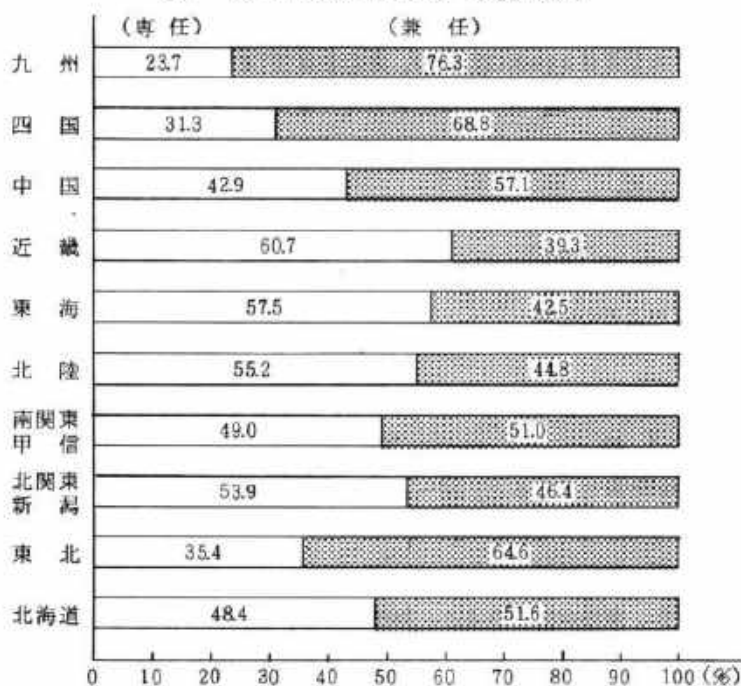
館長の専任、兼任状況をみると、専任45.4%、兼任54.6%となっている。地区別の専任、兼任状況をみると、北陸、東海、近畿地区での専任の割合が大きい(図1)。

表1 館長の性、年齢別構成

(単位 %, 人)

区 分		計	北海道	東 北	北関東 新 潟	南関東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
性	男	99.6 463	100.0 31	100.0 82	100.0 56	98.0 48	100.0 29	47.5 39	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
	女	0.4 2				2.0 1		2.5 1				
年 年齢	30~39歳	2.6 12			5.4 3	2.0 1		7.5 3	3.3 2			5.1 3
	40~49	28.2 131	45.2 14	20.7 17	35.7 20	34.7 17	31.0 9	32.5 13	21.3 13	21.4 9	31.3 5	23.7 14
	50~59	52.7 245	48.4 15	62.2 51	44.6 25	44.9 22	41.4 12	50.0 20	63.9 39	47.6 20	43.8 7	57.6 34
	60歳以上	15.5 72	6.5 2	15.9 13	14.3 8	16.3 8	27.6 8	7.5 3	9.8 6	31.0 13	25.0 4	11.9 7
	不 明	1.1 5		1.2 1		2.0 1		2.5 1	1.6 1			1.7 1

図1 ホーム館長，地区別，専兼任状況



兼任の場合の通常勤務場所をみると、勤労青少年ホーム32.7％、勤労青少年ホーム以外が67.3％となっている(巻末統計表「表1-3」参照)。

ニ 勤続年数

館長としての勤続年数をみると、1年未満35.3％、1～3年未満40.4％、3～5年未満15.3％、5年以上8.6％である。地区別にみると、北陸、九州地区以外で、1～3年未満の勤続年数の館長の割合が高い(表2)。

表 2 館 長 の 勤 続 年 数

(単位 ％)

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	東関東 埼玉	南関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
勤労青少年ホームでの勤続年数	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1年未満	35.3	32.3	31.7	26.8	32.7	55.2	27.5	36.1	31.0	43.8	47.5
	1年以上 3年未満	40.4	35.5	46.3	46.4	38.8	27.6	40.0	36.1	50.0	43.8	33.9
	3年以上 5年未満	15.3	25.8	18.3	10.7	20.4	10.3	17.5	21.3	4.8	6.3	10.2
	5年以上	8.6	6.5	3.7	16.1	8.2	6.9	12.5	4.9	14.3	6.3	8.5
	不 明	0.4						2.5	1.6			

(2) 勤労青少年ホームの運営に関すること

イ 運営委員会

(イ) 機 能

「有効に機能している」が25.4％、「まあまあ機能している」が35.5％で、両者合せて60.9％がその有用性を認めているが、一方「形式化している」とするものが23.9％ある。「形式化している」とするものは、北海道、北陸、東海で比較的率が高い。

(ロ) ホーム利用者の参加

「ホーム利用者が入っている」が72.3％、「メンバーとして入っていないがオブザーバーとして参加している」2.6％で、4分の3のホームで運営委員会に利用者が参画している。「ホーム利用者が、メンバーとしてもオブザーバーとしても参加していない」は9.9％となっているが、これを地区別にみると、不参加の割合の大きいところは、北関東、新潟21.4％、近畿16.4％、南関東、甲信16.3％となっている(巻末統計表「表1-4」参照)。

（イ）開催回数

昭和57年度の運営委員会開催の状況をみると、「定例」開催は2回33.8%、1回33.3%と、1～2回の開催が多い。3回以上開催しているのは、東北、九州で比較的率が高い。「定例外」開催は、1回11.6%が多い（巻末統計表「表Ⅰ-4」参照）。

ロ ホーム主催行事

（イ）定期講座

定期講座の開催状況は、5～9回43.9%、10～14回18.7%と5～14回の開催率が高い。15～19回以上の開催は、東海で比較的率が高い。

（ロ）随時講座

随時講座の開催状況は、1～4回が46.9%と開催率が最も高くなっている。

（イ）人気のある講座、行事

① スポーツ講座（M.A.）

スポーツ講座（含随時講座）の中でも希望が多く、今後も力を入れていきたいとする講座は、卓球が最も多く63.2%である。地区別にみると、近畿、中国、四国で特に比率が高い。次いでバドミントン62.2%となっているが、北海道、北関東、新潟、北陸での率は、卓球を上廻って第1位となっている。以下、硬式テニス42.4%、バレーボール39.6%、ソフトボール26.5%の順となっている（表3）。

② 各種講座（M.A.）

スポーツ講座を除く各種講座（含随時講座）の中で、希望が多く、今後も力を入れていきたいとする講座は、料理74.0%、華道60.6%、茶道49.5%、着物着付45.8%等の比率が高い。比率は低いが、手話14.8%、パーソナルコンピューター（パソコン）9.2%等、ボランティアや時代に即応した講座もみられる（図2）。

③ 講座以外の行事

過去1年間のうち、特に人気のあるホーム主催行事は、「文化祭」41.5%、「スポーツ対抗試合」38.5%、「勤労青少年の日の行事」36.3%、「クリスマスパーティ」36.3%、「他ホームとの交流会」24.3%、「キャンプ大会」19.4%等となっている（図3）。

ハ クラブ・サークル活動

（イ）クラブ・サークル数

スポーツに関するものが最も多く2,203、次いで音楽に関するもの992、家政に関するもの586、ダンスに関するもの528等となっている（表4）。

表3 希望が多く今後も力を入れたいスポーツ講座(M.A.)

区 分		計	北海道	東 北	北関東 新 潟	南関東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中国	四 国	九 州
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
卓 球		63.2	48.4	69.5	62.5	65.3	58.6	55.0	55.7	66.7	93.8	66.1
バドミントン		62.2	67.7	69.5	71.4	57.1	65.5	57.5	39.3	54.8	87.5	67.8
バレーボール		39.6	41.9	46.3	46.4	32.7	48.3	32.5	23.0	26.2	68.8	47.5
テニス	軟 式	23.2	38.7	26.8	14.3	12.2	13.8	25.0	13.1	31.0	31.3	33.9
	硬 式	42.4	19.4	45.1	62.5	49.0	34.5	55.0	49.2	33.3	31.3	23.7
バスケットボール		12.3	12.9	19.5	8.9	20.4	10.3	15.0	9.8	4.8	6.3	6.8
ソフトボール		26.5	12.9	24.4	32.1	12.2	48.3	35.0	23.0	16.7	75.0	23.7
野 球		5.8	9.7	4.9	5.4		17.2	2.5	9.8	2.4	12.5	3.4
空 手		9.2	9.7	4.9	7.1	12.2	3.4	5.0	8.2	16.7	25.0	11.9
拳 法		6.7	6.5	2.4	7.1	10.2	6.9		14.8	4.8	6.3	6.8
柔 道・剣 道		6.2	6.5	4.9	7.1	8.2	3.4	10.0	8.2		6.3	6.8
体 操		5.0	3.2	2.4	3.6	8.2	10.3	15.0	3.3	4.8	12.5	6.8
そ の 他		20.6	32.3	17.1	25.0	25.5	17.2	27.5	24.6	7.1	12.5	15.3
無 回 答		5.6	3.2	1.2	5.4	2.0		5.0	8.2	11.9		13.6

表4 クラブ・サークル数

(昭和58年11月1日現在)

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
計	(465) 5,435	(31) 362	(82) 915	(56) 531	(49) 801	(29) 264	(40) 420	(61) 882	(42) 466	(16) 160	(59) 634
スポーツに関するもの	(441) 2,203	(29) 132	(78) 358	(54) 225	(45) 357	(26) 72	(39) 164	(59) 406	(39) 177	(16) 66	(56) 246
音楽に関するもの	(372) 992	(25) 56	(63) 145	(42) 96	(38) 169	(26) 67	(33) 71	(50) 137	(36) 124	(14) 30	(45) 97
家庭に関するもの	(213) 586	(21) 54	(40) 112	(20) 40	(26) 87	(6) 22	(18) 43	(32) 78	(15) 38	(9) 27	(26) 85
ダンスに関するもの	(346) 528	(24) 38	(70) 100	(46) 65	(35) 60	(15) 23	(30) 50	(39) 54	(32) 48	(11) 15	(43) 65
美術に関するもの	(178) 301	(14) 28	(28) 47	(24) 37	(24) 43	(11) 16	(16) 29	(20) 34	(14) 19	(5) 8	(22) 40
ボランティア活動に関するもの	(181) 313	(10) 16	(36) 58	(17) 23	(17) 20	(21) 35	(13) 25	(25) 68	(18) 30	(4) 6	(20) 32
そ の 他	(215) 512	(17) 38	(38) 95	(27) 45	(22) 65	(12) 29	(18) 38	(31) 95	(13) 30	(5) 8	(32) 69

(注) ()内の数字はホーム数である。

図2 希望が多く今後も力を入りたい各種講座 (M.A)

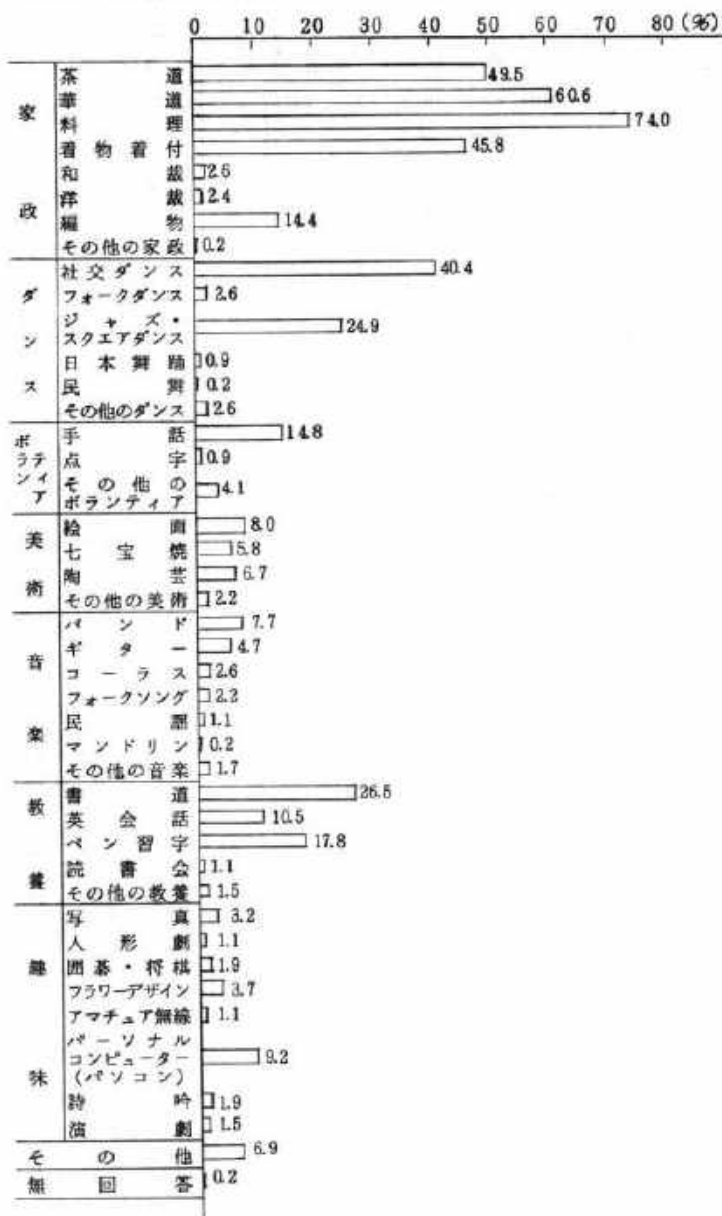
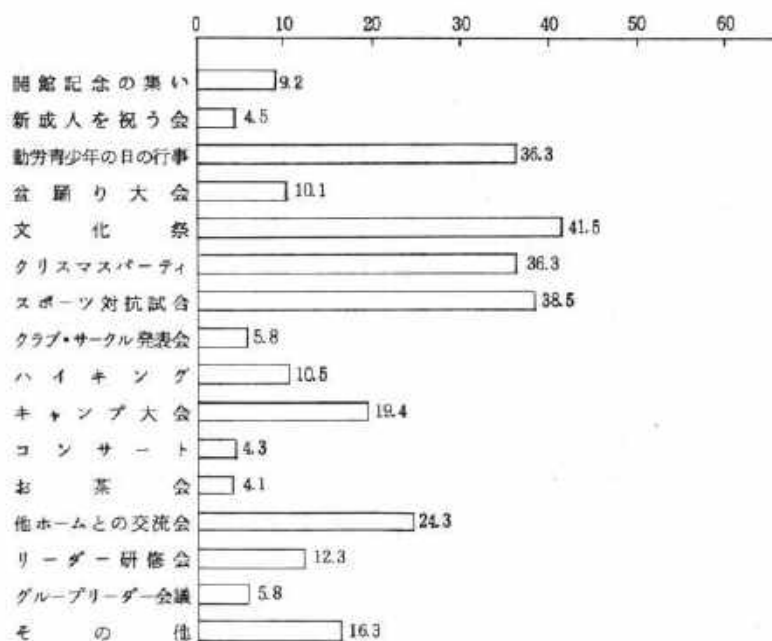


図 3 人 気 の あ る 行 事



(ロ) クラブ・サークル構成実人員

クラブ・サークル数の最も多いスポーツに関するものの構成実人員は56,124人、次いで音楽, 12,486人, ダンス, 14,136人等となっている(表5)。

い) クラブ・サークル活動に対する今後の方針

クラブ・サークル数については、増やしていきたい76.3%、現状どおり23.0%、減らしたい0.6%となっている(図4)。

クラブ・サークル活動へのかかわり方では「アドバイザー又はオブザーバー的」が61.5%で最も割合が高く、次いで「積極的指導」18.7%、「リーダーから定期的に報告を受けるだけ」15.5%、「全くタッチしない」4.1%となっている(図5)。

クラブ・サークルのリーダーの育成については「積極的に育成する」50.5%、「希望すれば育成する」41.3%、「タッチしない」8.2%となっている(図6)。

ニ 相談活動

過去1年間における勤労青少年からの相談受理については、「ある」76.1%、「ない」23.9%となっている。

表 5 クラブ・サークルを構成している実人員

(昭和58年11月1日現在)

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
計	(5,435) 113,353	(362) 6,342	(915) 17,989	(531) 9,105	(801) 16,328	(264) 3,959	(420) 13,466	(882) 24,435	(466) 7,829	(160) 2,394	(634) 11,506
スポーツに関するもの	(2,203) 56,124	(132) 2,935	(358) 7,125	(225) 4,995	(357) 10,116	(72) 1,448	(164) 7,363	(406) 12,337	(177) 3,456	(66) 1,117	(246) 5,232
音楽に関するもの	(992) 12,486	(56) 527	(145) 2,503	(96) 957	(169) 1,493	(67) 624	(71) 1,162	(137) 2,817	(124) 1,144	(30) 261	(97) 1,098
家政に関するもの	(586) 11,117	(54) 1,094	(112) 1,612	(40) 501	(87) 1,285	(22) 307	(43) 2,136	(78) 1,779	(38) 604	(27) 420	(85) 1,379
ダンスに関するもの	(528) 14,136	(38) 846	(100) 3,197	(65) 1,524	(60) 1,592	(23) 483	(50) 1,287	(64) 2,104	(48) 1,191	(15) 266	(65) 1,646
美術に関するもの	(301) 3,553	(28) 282	(47) 501	(37) 405	(43) 473	(16) 152	(29) 479	(34) 440	(19) 249	(8) 111	(40) 461
ボランティア活動に関するもの	(313) 7,530	(16) 190	(58) 1,007	(23) 267	(20) 351	(35) 539	(25) 441	(68) 3,537	(30) 566	(6) 144	(32) 488
そ の 他	(512) 8,407	(38) 468	(95) 2,044	(45) 556	(65) 1,018	(29) 406	(38) 598	(95) 1,421	(30) 619	(8) 75	(69) 1,202

(注) ()内の数字はクラブ・サークル数である。

図 4 クラブ・サークル活動に対する今後の方針

— クラブ・サークル数 —

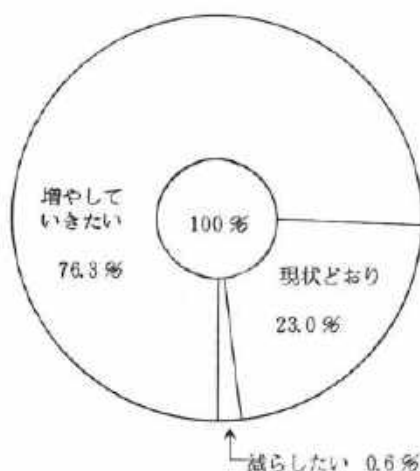


図 5 クラブ・サークル活動に対する今後の方針

— 活動に対するかわり方 —

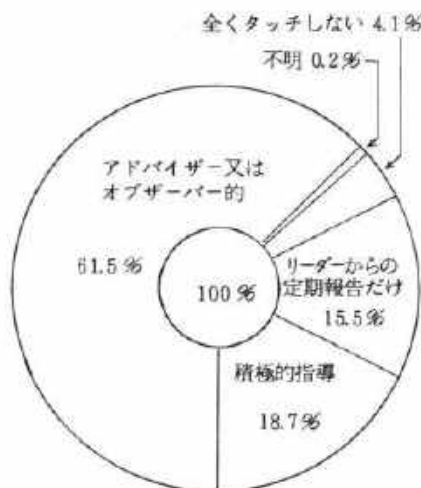


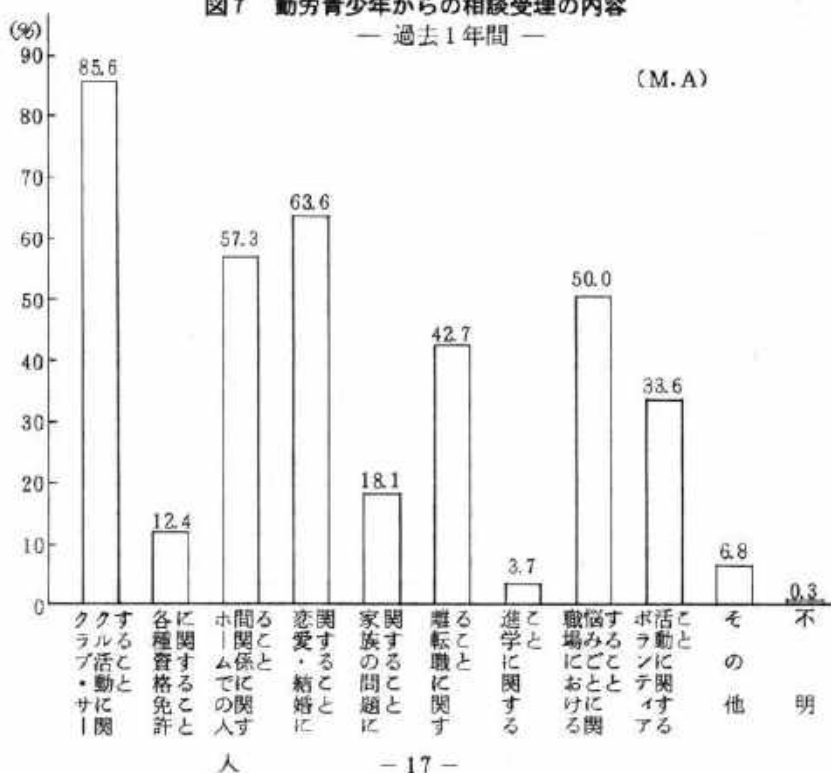
図6 クラブ・サークル活動に
対する今後の方針
— リーダーの育成 —



相談延件数は、9,733件となっている。
(巻末統計表「表1-11」参照)。

相談内容(M.A.)についてみると、最も割合の高いのは、「クラブ・サークル活動に関すること」で85.6%、次いで「恋愛、結婚に関すること」63.6%、「ホームでの人間関係に関すること」57.3%、「職場における悩みごとに関すること」50%、「離転職に関すること」42.7%、「ボランティア活動に関すること」33.6%となっている(図7)。

図7 動労青少年からの相談受理の内容
— 過去1年間 —



ホ 当面している課題 (M・A)

「事業主及び事業主団体並びに地域一般に対するホームのPRの徹底と密接な連携」が54.8%で最も割合が高く、次いで「利用者の自主性促進と指導の在り方」39.8%、「ホーム主催の各種講座の充実とスポーツ大会等の諸行事の活発化」34.2%、「クラブ・サークル活動の促進」32.5%、「狭隘なスポーツ施設の改善並びに他の体育施設の併用」26.0%、「ホーム職員の人材確保」23.4%等となっている(表6)。

表6 館長として現在当面している課題 (M・A)

(単位 %)

区 分		計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲 信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ホ ー ム の 利 用 の 促 進	事業主及び事業主団体並びに地域一般に対するホームのPRの徹底と密接な連携	54.8	45.2	65.9	46.4	49.0	48.3	57.5	49.2	61.9	75.0	54.2
	ホーム主催の各種講座の充実とスポーツ大会等の諸行事の活発化	34.2	25.8	30.5	46.4	20.4	37.9	37.5	44.3	23.8	56.3	30.5
	クラブ・サークル活動の促進	32.5	51.6	32.9	30.4	36.7	20.7	32.5	36.1	28.6	18.8	28.8
	勤労青少年のニーズの把握	20.0	19.4	25.6	16.1	22.4	6.9	27.5	19.7	21.4	12.5	16.9
	適格な講師の確保	5.4		6.1	7.1	4.1	3.4	7.5	3.3	4.8	6.3	8.5
施 設	狭隘なスポーツ施設の改善並びに他の体育施設の併用	26.0	9.7	23.2	35.7	26.5	37.9	17.5	24.6	31.0	31.3	25.4
	ホーム利用者のための駐車場の確保	8.4	6.5	6.1	12.5	6.1	17.2	22.5	3.3	4.8	6.3	5.1
ホ ー ム の 在 り 方	利用者の自主性促進と指導の在り方	39.8	71.0	35.4	21.4	34.7	31.0	60.0	44.3	42.9	43.8	33.9
	制限年齢を越えたホーム利用者の取り扱い	17.8	6.5	20.7	17.9	22.4	27.6	10.0	16.4	9.5	12.5	25.4
	ホーム利用時間の在り方	5.4	3.2	6.1	5.4	8.2	3.4		4.9	11.9		5.1
	ホームと地域社会との交流	15.7	6.5	14.6	17.9	14.3	13.8	17.5	19.7	21.4	6.3	15.3
人 事	ホーム職員の人材確保	23.4	35.5	14.6	19.6	30.6	37.9	15.0	18.0	21.4	18.8	33.9
	ホーム職員の配置と指導	9.7	19.4	8.5	7.1	8.2	10.3	12.5	6.6	7.1	6.3	13.6
そ の 他		2.8		4.9	1.8	2.0	3.4	5.0	4.9	2.4		

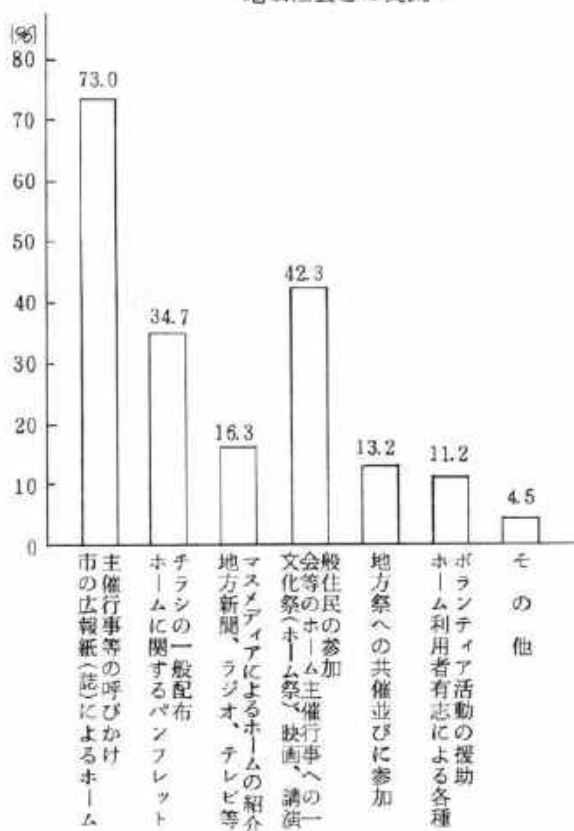
へ 地域社会との交流と方法

地域社会との交流については、「交流を図っている」89.9%、「交流を図っていない」10.1%となっている。

交流の方法として、最も効果があると思われる方法では、「市の広報紙(誌)によるホーム主催行事等の呼びかけ」(73.0%)が挙げられている。次いで「文化祭(ホーム祭)映画、講演会等のホーム主催行事への一般住民の参加」(42.3%)、「ホームに関するパンフレット、チラシの一般配布」(34.7%)等となっている(図8)。

図8 最も効果があると思われる方法 (M・A)

— 地域社会との交流 —



ト 職員の研修、講習等について

勤労青少年ホーム指導員資格講習未受講者について、昭和59年度に受講を予定しているか否かについては、「予定がある」が32.5%、「ない」が66.2%、「不明」1.3%となっている。

予定がない場合の理由として、「旅費等予算がない」37.7%が最も割合が高くなっている。次いで「すでに資格講習を受けた職員がいるから」29.5%、「人手がない」19.8%となっている。

勤労青少年ホーム指導員資格講習会以外にホーム職員として資質向上につながる研修、講習の受講について「予定がある」が75.9%、「ない」23.7%、「不明」0.4%となっている。

予定がない場合の理由として最も多いものが「旅費等予算がない」59.1%、次いで「人手がない」30.9%となっている(図9)。

受講させる予定がある場合の開催地等に対する意見では、「同一都道府県で行うのがよい」が最も高く65.2%、「ブロック単位で行うのがよい」が33.4%となっている(図10)。

図9 ホーム職員として資質向上につながる研修、講習受講の有無と受講予定なしの場合の理由

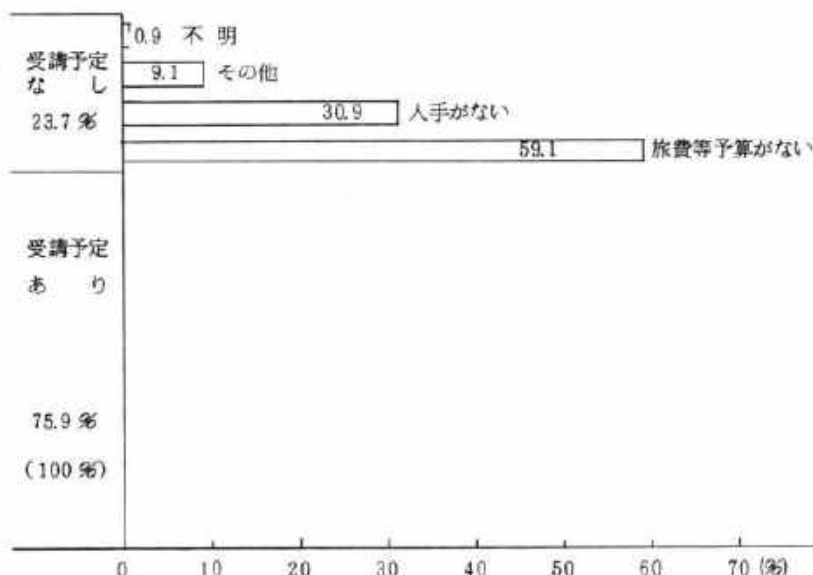
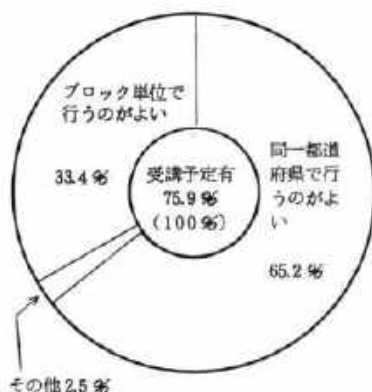


図10 資質向上につながる研修、講習開催地等に対する意見 (M.A)



(3) 現代の勤労青少年の特徴について
— 10年ぐらい前と比べて —

全調査対象者に対して、勤労青少年ホーム利用者だけにとどまらず、現代の勤労青少年が持っている特徴と思われる点を探ったものが図11である。割合の高い順にその主なものを挙げると、①協調性が弱くなった(45.6%)、②積極性が弱くなった(37.0%)、③合理性が高まった(29.0%)、④礼儀が無作法になった(26.0%)、⑤他人に対する思いやりが乏しくなった(21.7%)等となっている。これらの勤労青少年観を挙げたもののうち調査対象者の

の年齢階級との関係を見ると、各年齢階級を通じて「協調性が弱くなった」が高い割合を占め、次いで「積極性が弱くなった」、「合理性が高まった」等を挙げている。

図11 現代の勤労青少年の特徴 (M.A)
— 10年ぐらい前と比べて —



60歳以上では「思考性が豊かになった」、「自立心が強くなった」等で他の年齢階級でみる割合より高くなっている(表7)。

表7 年齢階級別、館長のみた現代の勤労青少年の特徴(M・A)

— 10年ぐらい前と比べて —

区 分		計	30～39歳	40～49	50～59	60歳以上	不明
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
思 考 性	豊かになった	11.8		10.7	11.4	15.3	40.0
	乏しくなった	8.8		9.2	11.0	2.8	
合 理 性	高まった	29.0	33.3	31.3	29.4	23.6	20.0
	低下した	1.5		0.8	1.2	4.0	
協 調 性	強くなった	13.3		10.7	12.2	23.6	20.0
	弱くなった	45.6	75.0	55.0	42.4	33.3	60.0
積 極 性	強くなった	7.5		3.8	9.8	6.9	20.0
	弱くなった	37.0	33.3	40.5	38.8	26.4	20.0
他人に対する思いやり	豊かになった	6.9	8.3	3.8	7.3	8.3	40.0
	乏しくなった	21.7	16.7	22.1	20.8	25.0	20.0
礼 儀	正しくなった	7.5	16.7	3.1	9.8	5.6	20.0
	無作法になった	26.0	33.3	28.2	22.9	31.9	20.0
指 示・命 令	厭がるようになった	17.2		16.8	17.6	19.4	20.0
	厭がらなくなった	2.8	8.3	0.8	2.9	5.6	
競 争 意 識	強くなった	3.0		4.6	2.0	4.2	
	弱くなった	4.9		6.1	5.3	2.8	
自 立 心	強くなった	11.6	16.7	4.6	13.5	18.1	
	弱くなった	16.6	8.3	24.4	15.1	9.7	
金 銭 感 覚	強くなった	18.5	33.3	13.0	21.2	18.1	
	弱くなった	1.1			1.6	1.4	
そ の 他		1.3	8.3	0.8	1.2	1.4	
不 明		0.6		0.8	0.4	1.4	

3 ホーム指導員の活動状況

(1) 調査対象者の属性

イ 性

調査対象指導員の性別構成は、男子91.8%(491人)、女子8.2%(44人)である。

ロ 年 齢

年齢階級別にみると、25～29歳未満26.9％、30～34歳未満21.9％、35～39歳未満14.6％、40～44歳未満8.8％、45～49歳未満6.4％、50～54歳未満4.7％、55歳以上10.1％、となっている。

ハ 専任、兼任別状況

専任、兼任状況をみると、専任74.6％、兼任26.7％となっている。兼任の場合、通常勤務場所が勤労青少年ホーム66.9％、勤労青少年ホーム以外が33.1％となっている。

ニ 経験年数

ホーム指導員の経験年数は、1年未満19.4％、1～3年未満37.9％、3～5年未満22.1％、5年以上20.0％である。

ホ 勤労青少年ホーム指導員資格講習受講及び受講時期

勤労青少年ホーム指導員資格講習受講者は57.9％で、未受講者は42.1％である。受講者の受講時期をみると、昭和50年以前6.8％、50～54年24.8％、55年以降68.4％となっている。

(2) 青少年指導に関する資格の有無及び資格名

勤労青少年ホーム指導員資格以外の何等かの青少年指導に関する資格を持っている者は29.1％、持っていない者は71.0％となっている。持っている(29.1％)場合の資格名は、教員免許48.4％、レクリエーション指導者30.3％等となっている(表8)。

表8 何等かの青少年指導に関する資格別割合(M・A)

(単位 ％)

区 分		計	北海道	北 陸	北関東 新潟	南関東 甲信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
持 っ て い る 場 合 の 資 格 名	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	教 員 免 許	48.4	62.5	57.7	27.8	58.3	33.3	40.0	46.4	57.1	60.0	50.0
	レクリエーション 指導者	30.3	12.5	38.5	33.3	8.3	22.2	26.7	40.9	21.4	20.0	35.0
	キャンプ指導者	12.9		11.5	5.6		11.1	13.3	25.0	14.3	40.0	10.0
	オリエンテーリ ング指導者	10.3		11.5	22.2	8.3	11.1	6.7	3.6	7.1	20.0	15.0
そ の 他		51.0	87.5	53.8	50.0	50.0	55.6	46.7	64.3	42.9	20.0	30.0

(3) 青少年指導に関する講習，研修，研究会等への参加状況

過去1年間に，青少年指導に関する講習，研修，研究会等に参加したことがあるかどうかをみると，参加したことがある者は62.1%，参加したことがない者は37.9%となっている。

参加したことがある者(62.1%)の参加回数は，1回45.8%，2回23.2%，3回14.5%，4回5.7%，5回以上9.9%となっている(図12)。

参加日数は，1日23.8%，2日47.6%，3日6.9%，4日3.0%，5日以上17.5%，となっている(図13)。

(4) ホーム指導員の役割分担

ホームに調査対象者以外の指導員がいるかどうかをみると「いる」が64.5%，「いない」が36.5%となっている。

複数のホーム指導員がいる場合(64.5%)ホーム指導員同士の間で「役割分担がある」と答えた者は44.6%，「はっきりと分かれていないが時と場合により分担する」とする者は14.5%，「分担はない」40.9%となっている(図14)。

図12 青少年指導に関する講習，研修，研究会参加回数の割合

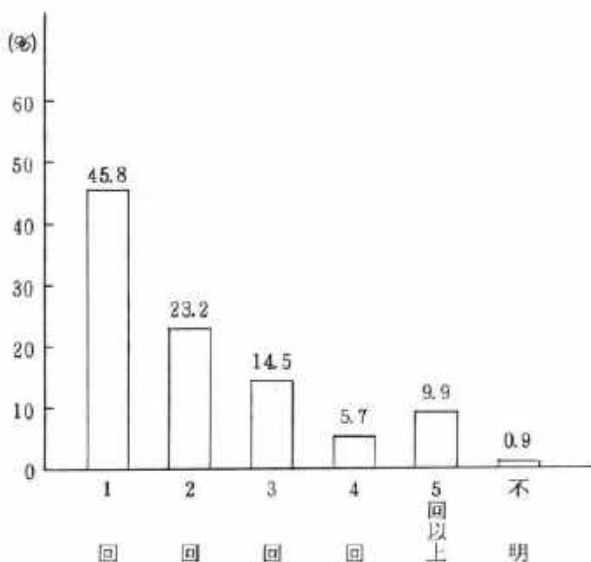


図13 青少年指導に関する講習，研修，研究会参加日数
(1回の参加日数の割合)

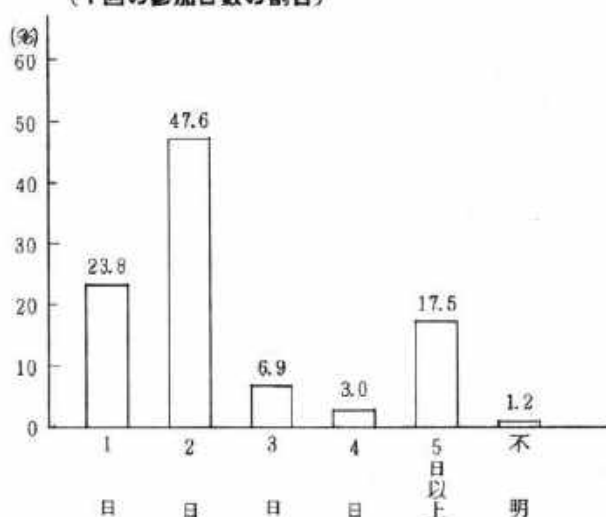
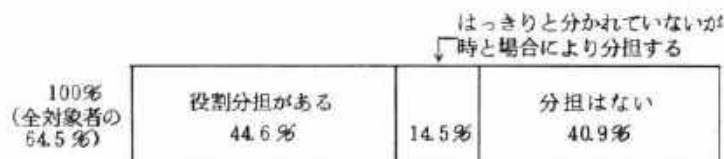


図14 ホーム指導員同士の間の役割分担の有無
— ホーム指導員が複数いる場合 —



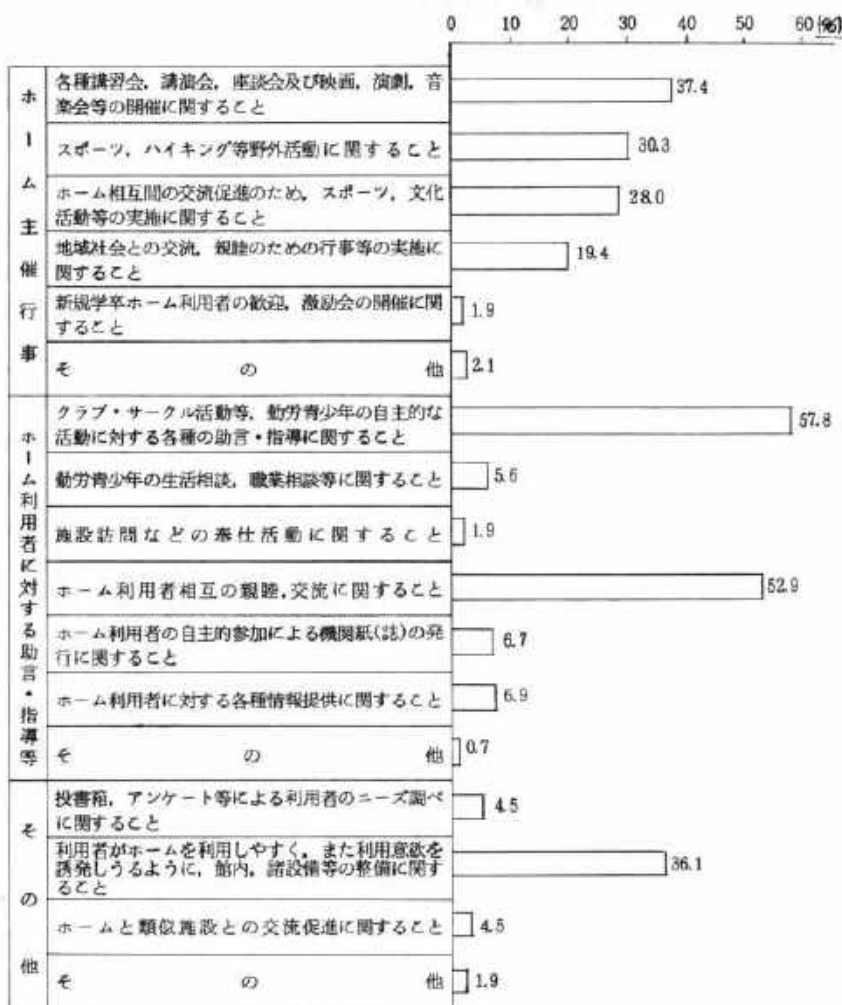
(5) ホーム指導員の活動状況

イ 主な活動

ホーム指導員としての主な活動についてみたのが図15である。

「ホーム主催行事」のなかでは、「各種講習会，講演会，座談会及び映画，演劇，音楽会等に関する事」37.4%，「スポーツ，ハイキング等野外活動に関する事」30.3%で割合が高く，次いで「ホーム相互間の交流促進のため，スポーツ文化活動等の実施に関する事」28.0%，「地域社会との交流，親睦のための行事等の実施に関する事」19.4%等となっている。

図15 ホーム指導員の主な活動内容 (M・A)



「ホーム利用者に対する助言、指導等」のなかでは、「クラブ・サークル活動等、勤労青少年の自主的な活動に対する各種の助言、指導に関すること」、「ホーム利用者相互の親睦、交流に関すること」の割合が高く、それぞれ57.8%、52.9%となっている。割合としては小さいが、勤労青少年の生活相談、職業相談等に関すること(5.6%)もみられる。

「その他」の主な活動としては「利用者がホームを利用しやすく、また利用意欲を誘発しうるように、館内、諸設備等の整備に関すること」が36.1%、となっている。またホーム指導員活動の内容に、地区による特色もみることが出来る(巻末統計表 表Ⅱ-4)。

ロ 活動へのかかわり方

ホーム指導員としてホーム活動に対する主なかかわり方についてみたのが表9である。

総合的にみて「ホーム主催行事」については、「指揮的立場」をとる割合は高いが「スポーツ、ハイキング等野外活動に関すること」、「地域社会との交流、親睦のための行事等の実施に関すること」では「助言的立場」をとる割合が高くなっている。

「ホーム利用者に対する助言、指導等」については、「ホーム利用者相互の親睦、交流に関すること」、「ホーム利用者の自主的参加による機関紙(誌)の発行に関すること」等では助言的立場をとる割合は大きい「調整的立場」をとる割合も高くみられる。数は少ないが「施設訪問などの奉仕活動に関すること」では「指揮的立場」をとる割合が高い。「利用者がホームを利用しやすく、また利用意欲を誘発しうるように、館内、諸設備等の整備に関すること」、「ホームと類似施設との交流促進に関すること」では「調整的立場」をとっている割合が大きい。

ハ 今後の活動の中心

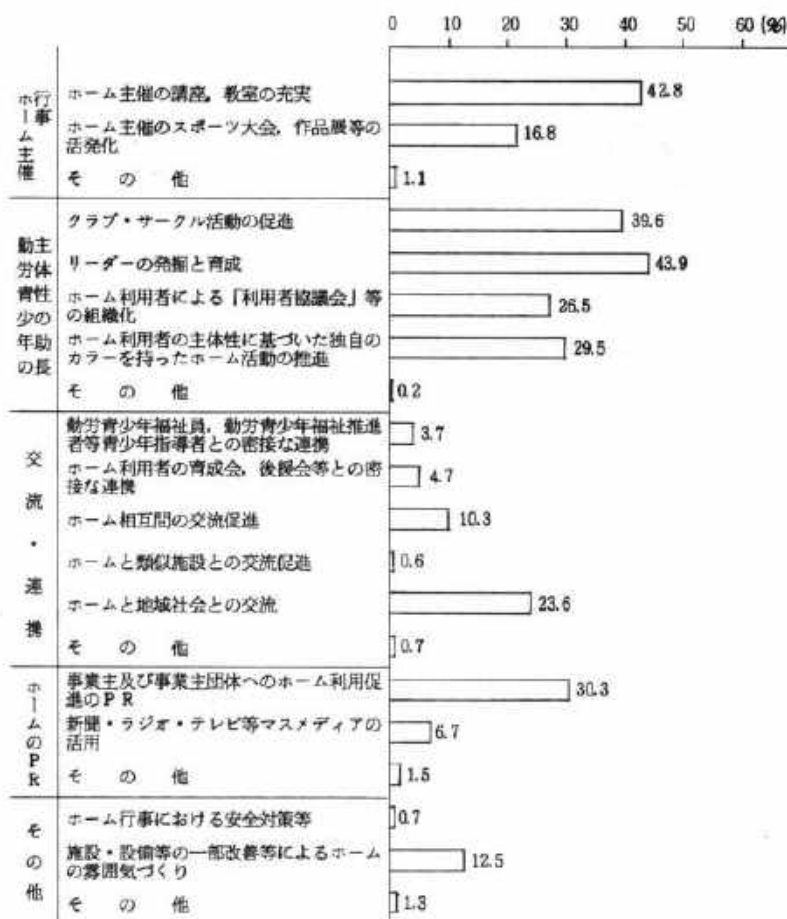
ホーム指導員が今後活動の中心としていきたい活動内容をみたのが図16である。

これによれば、「リーダーの発掘と育成」が43.9%と最も割合が高く、次いで「ホーム主催の講座、教室の充実」42.8%、「クラブ・サークル活動の促進」39.6%、「事業主及び事業主団体へのホーム利用促進のPR」30.3%、「ホーム利用者の主体性に基づいた独自のカラーを持ったホーム活動の促進」29.5%、が上位に挙げられている。

表9 ホーム指導員のホーム活動への主なかわり方 (M・A)

区 分		計	指揮的 立 場	助言的 立 場	調整的 立 場	観察的 立 場
ホ ム 主 催 行 事	各種講習会、講演会、座談会及び映画、演劇、音楽会等の開催に関する こと	100.0 200	54.0 108	19.0 38	22.5 45	4.5 9
	スポーツ、ハイキング等野外活動に 関すること	100.0 162	40.1 65	44.4 72	12.3 20	3.1 5
	ホーム相互間の交流促進のため、ス ポーツ、文化活動等の実施に関する こと	100.0 150	36.0 54	36.0 54	24.7 37	3.3 5
	地域社会との交流、親睦のための行 事等の実施に関すること	100.0 104	31.8 33	40.4 42	25.0 26	2.9 3
	新規学卒ホーム利用者の歓迎、激励 会の開催に関すること	100.0 10	50.0 5	50.0 5		
	そ の 他	100.0 11	54.5 6	18.2 2	27.3 3	
ホ ー ム 利 用 者 に 対 す る 助 言 ・ 指 導 等	クラブ・サークル活動等、勤労青少 年の自主的な活動に対する各種の助 言・指導に関すること	100.0 309	8.1 25	81.2 251	7.4 23	3.2 10
	勤労青少年の生活相談、職業相談等 に関すること	100.0 30		93.3 28	6.7 2	
	施設訪問などの奉仕活動に関するこ と	100.0 10	40.0 4	60.0 6		
	ホーム利用者相互の親睦、交流に関 すること	100.0 283	10.2 29	48.4 137	34.9 99	6.4 18
	ホーム利用者の自主的参加による機 関紙(誌)の発行に関すること	100.0 36	19.4 7	33.3 12	25.0 9	21.6 8
	ホーム利用者に対する各種情報提供 に関すること	100.0 37	10.8 4	43.2 16	29.7 11	16.2 6
	そ の 他	100.0 4	50.0 2	25.0 1	25.0 1	
そ の 他	投書箱、アンケート等による利用者 のニーズ調べに関すること	100.0 24	33.3 8	4.2 1	20.8 5	41.7 10
	利用者がホームを利用しやすく、また 利用意欲を誘発しうるように、館 内、諸設備等の整備に関すること	100.0 193	36.3 70	11.9 23	42.5 82	9.3 18
	ホームと類似施設との交流促進に関 すること	100.0 13		7.7 1	69.2 9	23.0 3
	そ の 他	100.0 10	10.1 1	40.0 4	40.0 4	10.0 1

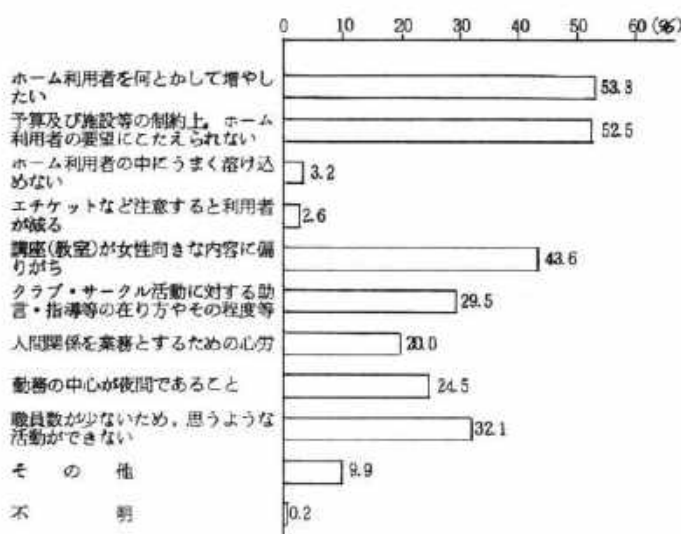
図16 ホーム指導員の今後の中心としていきたい活動内容



(6) ホーム指導員としての悩み (M・A)

ホーム指導員の職務上の悩みとして、「ホーム利用者を何とかして増やしたい」が53.3%を占めてトップとなっている。次いで「予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこれえられない」52.5%、「講座(教室)が女性向きな内容に偏りがち」43.6%、「職員数が少ないため、思うような活動ができない」32.1%、「クラブ・サークル活動に対する助言、指導等のあり方やその程度等」29.5%、の順になっている(図17)。

図17 ホーム指導員の職務上の悩み (M.A)



これらのホーム指導員の職務上の悩みを経験年数別にみると、「ホーム利用者を何とかして増やしたい」、「予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこたえられない」は経験年数にかかわらず悩みとしての割合が高くなっている。経験1年未満では、「エチケットまで注意すると利用者が減る」、「職員数が少ないため、思うような活動ができない」等の悩みの割合が他の経験年数の者より高くなっているが、「講座(教室)が女性向きな内容に偏りがち」、「クラブ・サークル活動に対する助言、指導等の在り方やその程度等」、「人間関係を業務とするための心労」等の悩みは他の経験年数の者より少ない。また、経験年数1年以上3年未満の者は、「クラブ・サークル活動に対する助言、指導等の在り方やその程度等」についての悩みが他の経験年数の者より割合が高いのが目立っている。経験年数3年以上5年未満の者は「人間関係を業務とするための心労」、「勤務の中心が夜間であること」等の割合が高くなっている(表10)。

(7) ホーム指導員になってよかったと思うとき (M.A)

ホーム指導員になってよかったと思うときは、「ホーム利用者と打ち解けた雰囲気 で交流しているとき」が64.9%を占めトップで「クラブ・サークル活動、あるいはホーム主催行事等の準備のために、ホーム利用者が一生懸命に取り組んでいる姿に触れ

表10 経験年数別、ホーム指導員の職務上の悩み(M・A)

区 分	計	経 験 1 年 未 満	1 年以 上 3 年 未 満	3 年以 上 5 年 未 満	5 年 以 上	
						不 明
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ホーム利用者を何とかして増やしたい	53.3	55.8	53.7	53.4	50.5	11.1
予算及び施設等の制約上ホーム利用者の要望にこたえられない	52.5	54.8	54.7	45.8	54.2	11.1
ホーム利用者の中にうまく溶け込めない	3.2	3.8	3.4	4.2	0.9	
エチケットなど注意すると利用者が減る	2.6	4.8	2.5	2.5	0.9	
講座(教室)が女性向きの内容に偏りがち	43.6	35.6	44.8	45.8	46.7	11.1
クラブ・サークル活動に対する助言・指導等の在り方やその程度等	29.5	25.0	32.5	29.7	27.1	22.2
人間関係を業務とするための心労	20.0	11.5	19.7	28.8	19.6	
勤務の中心が夜間であること	24.5	26.0	25.1	28.8	15.0	33.3
職員数が少ないため、思うような活動ができない	32.1	39.4	29.6	33.1	29.0	11.1
そ の 他	9.9	7.7	8.9	7.6	16.8	
不 明	0.2		0.5			

たとき」55.9%、「登録時に比べてホーム利用者がだんだん変化し、成長していることが感じられたとき」27.3%、「ホームに対する理解ある言葉と声援をおくられたとき」25.2%、となっている(図18)。

(8) 現代の勤労青少年の特徴について

— 5年ぐらい前と比べて —

全調査対象者に対して、勤労青少年ホーム利用者だけにとどまらず、現代の勤労青少年が持っている特徴と思われる点を尋ねたものが図19である。割合の高い順にその主なものを挙げると、①協調性が弱くなった(48.0%)、②積極性が弱くなった(41.9%)、③合理性が高まった(26.7%)、④他人に対する思いやりが乏しくなった(21.3%)、⑤礼儀が無作法になった(20.7%)、⑥自立心が弱くなった(17.6%)、⑦金銭感覚が強くなった(13.3%)等となっている。

図18 ホーム指導員になってよかったと思うとき (M. A)

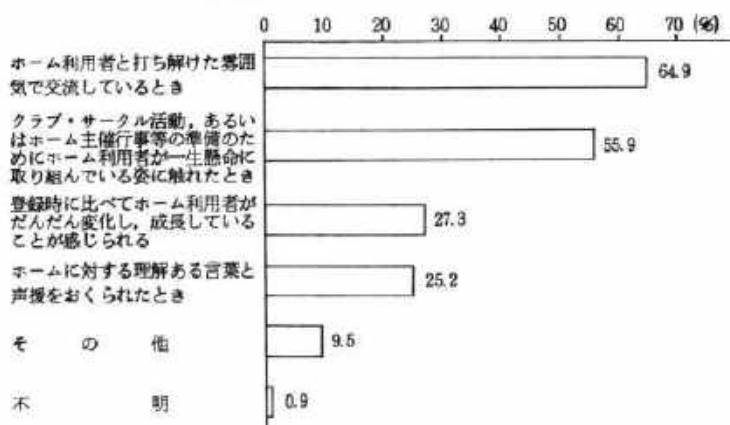
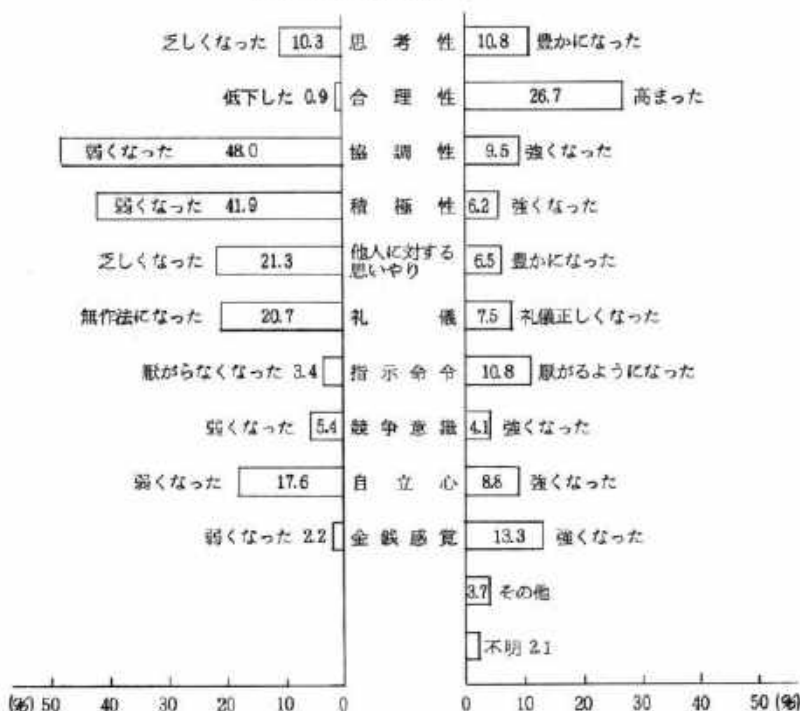


図19 現代の勤労青少年の特徴 (M. A)

— 5年ぐらい前と比べて —



これらの勤労青少年観を挙げたもののうち調査対象者の年齢階級との関係を見ると、各年齢階級を通じて「協調性が弱くなった」、「積極性が弱くなった」が高い割合を占めているが、30歳未満の調査対象者では、「積極性が弱くなった」が他の年齢階級の者より高い割合を占め、30歳代では、「協調性が弱くなった」、「無作法になった」、40歳代では、「他人に対する思いやりが乏しくなった」、「思考力が乏しくなった」、50歳以上では、「指示、命令を厭がるようになった」等年齢階級によりホーム指導員のみた現代の勤労青少年の特徴に差がみられる(表11)。

表11 年齢別ホーム指導員のみた現代の勤労青少年の特徴 (M・A)

— 5年ぐらい前と比べて —

区 分		計	25歳未満	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55歳以上	不明
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
思考性	豊かになった	10.8	9.4	8.3	10.3	10.3	10.0	17.5	4.0	20.4	
	乏しくなった	10.3		12.5	12.0	9.0	14.9	11.8	4.0	5.6	25.0
合理性	高まった	26.7	15.6	29.9	32.5	28.2	27.7	17.6	24.0	14.8	50.0
	低下した	0.9		1.4	0.9		2.1			1.9	
協調性	強くなった	9.5	3.1	6.3	4.3	5.4	12.8	20.6	24.0	24.1	
	弱くなった	48.0	31.3	49.3	49.6	61.5	53.2	50.0	24.0	38.9	25.0
積極性	強くなった	6.2	6.3	2.8	6.0	5.1	2.1	11.8	16.0	13.0	
	弱くなった	41.9	46.9	52.8	46.2	38.5	34.0	32.4	28.0	25.9	25.0
他人に対する思いやり	豊かになった	6.6	6.3	3.5	4.3	6.4	10.6	2.9	4.0	20.4	
	乏しくなった	21.3	12.5	21.5	20.5	24.4	17.0	32.4	20.0	22.2	
礼 儀	正しくなった	7.5		4.9	4.3	7.7	4.3	26.5	8.0	16.7	
	無作法になった	20.7	18.8	19.4	28.2	23.1	23.4	8.8	24.0	9.3	25.0
指示・命令	厭がるようになった	10.8	18.8	6.3	9.4	12.8	8.5	8.8	16.0	20.4	
	厭がらなくなった	3.4	3.1	2.1		2.6	4.3	2.9	12.0	11.1	
競争意識	強くなった	4.1		5.6	3.4	3.8		5.9	4.0	7.4	
	弱くなった	5.4	12.5	6.9	5.1	3.8	4.3	2.9	4.0	3.7	
自立心	強くなった	8.8	3.1	6.3	9.4	5.1	10.6	8.8	16.0	14.8	50.0
	弱くなった	17.6	21.9	18.1	18.8	21.8	25.5	11.8	8.0	7.4	
金銭感覚	強くなった	13.3	3.1	10.4	13.7	15.4	21.3	8.8	16.0	16.7	25.0
	弱くなった	2.2	3.1	3.5	2.6		2.1			3.7	
その 他		3.7	12.5	5.6	0.9	1.3	4.3	8.8	4.0		
不 明		2.1	6.3	3.5	0.9	1.3			4.0	1.9	

統計表

表 I - 1 勤労青少年ホーム所在市町村の人口及び勤労青少年数

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
ホム所在市町村の人口											
計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
5 万人未満	43.7 203	48.4 15	63.4 52	53.6 30	24.5 12	51.7 15	25.0 10	18.0 11	42.9 18	62.5 10	50.8 30
5~10万人未満	24.5 114	9.7 3	19.5 16	21.4 12	38.8 19	24.1 7	35.0 14	19.7 12	28.6 12	18.8 3	27.1 16
10~30万人未満	16.8 78	18.4 6	12.2 10	19.6 11	20.4 10	13.8 4	32.5 13	13.1 8	16.7 7	18.8 3	10.2 6
30~50万人未満	5.6 26	3.2 1	2.4 2	5.4 3	10.2 5	10.3 3	5.0 2	9.8 6	7.1 3		1.7 1
50~100万人未満	2.4 11		2.4 2		4.1 2		2.5 1	3.3 2	4.8 2		3.4 2
100 万人以上	7.1 33	19.4 6			2.0 1			36.1 22			6.8 4
同動上ホム所在市町村の数											
計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
5 千人未満	55.7 259	51.6 16	74.4 61	57.1 32	38.8 19	72.4 21	42.5 17	26.2 16	59.5 25	81.3 13	66.1 39
5~1 万人未満	15.7 73	9.7 3	12.2 10	17.9 10	22.4 11	6.9 2	25.0 10	14.8 9	19.0 8		16.9 10
1~5 万人未満	19.1 89	19.4 6	11.0 9	25.0 14	30.6 15	20.7 6	30.0 12	19.7 12	14.3 6	18.8 3	10.2 6
5~10万人未満	3.2 15		2.4 2		6.1 3		2.5 1	11.5 7	4.8 2		
10 万人以上	6.2 29	19.4 6			2.0 1			27.9 17	2.4 1		6.8 4

表 I - 2 勤 労 青 少 年

区 分			計	北 海 道	東 北	北 関 東 海
計			3.5 1,589	3.9 122	3.3 267	3.9 219
計	うち 指導員	小 計	2.7 1,250	3.1 97	2.7 214	2.6 144
		男	2.2 1,019	2.3 71	2.4 191	2.4 132
		女	0.5 231	0.8 26	0.3 23	0.2 12
	うちホーム指導員 資格講習修了者		0.7 316	0.7 23	0.8 67	0.8 47
常 勤	専 任	計	1.9 875	2.4 74	1.6 127	1.8 99
		うち指導員 小 計	1.5 705	2.1 64	1.4 109	1.4 76
		男	1.3 585	1.5 47	1.2 98	1.3 71
		女	0.3 121	0.5 17	0.1 11	0.1 5
	うちホーム指導員 資格講習修了者		0.5 243	0.5 17	0.6 44	0.6 35
	兼 任	計	1.0 468	0.8 26	1.3 104	1.9 107
		うち指導員 小 計	0.8 349	0.6 19	1.0 82	1.1 62
		男	0.7 301	0.6 18	0.9 72	1.0 56
		女	0.1 48	0.0 1	0.1 10	0.1 6
非 常 勤	専 任	計	0.4 169	0.5 14	0.3 22	0.1 3
		うち指導員 小 計	0.3 142	0.3 9	0.2 18	
		男	0.2 88	0.0 1	0.2 16	
		女	0.1 54	0.3 8	0.0 2	
	うちホーム指導員 資格講習修了者		0.0 10		0.0 3	
	兼 任	計	0.2 77	0.3 8	0.2 14	0.2 10
		うち指導員 小 計	0.1 53	0.2 5	0.1 5	0.1 6
		男	0.1 45	0.2 5	0.1 5	0.1 5
		女	0.0 8			0.0 1
	うちホーム指導員 資格講習修了者		0.0 4	0.0 1	0.0 1	

(注) 欄内の右下の数字は、実人数で、左上の数字はホーム平均の人数である。

ホームの職員数

南 甲	関 信	東	北	陸	東	海	近	畿	中	国	四	国	九	州
3.5	170	3.4	98	3.6	143	3.8	231	3.4	141	2.5	40	2.9	158	
2.9	137	2.7	77	3.2	127	2.8	172	2.6	111	2.4	38	2.4	133	
2.4	113	1.8	52	2.5	100	2.1	126	2.2	93	1.6	25	2.1	116	
0.5	24	0.9	25	0.7	27	0.8	46	0.4	18	0.8	13	0.3	17	
0.7	34	0.4	13	0.4	14	0.9	54	0.4	18	0.5	8	0.7	38	
1.9	93	2.0	58	2.6	102	2.6	156	1.3	55	1.2	19	1.7	92	
1.7	82	1.4	41	2.3	90	1.7	105	1.0	44	1.1	17	1.4	78	
1.5	71	0.9	26	1.8	70	1.4	87	0.9	36	0.6	9	1.3	70	
0.2	11	0.5	15	0.5	20	0.3	18	0.2	8	0.5	8	0.1	8	
0.5	23	0.4	11	0.3	12	0.9	53	0.3	14	0.3	4	0.5	30	
1.3	60	1.0	29	0.8	33	0.5	30	1.1	45	0.8	13	0.4	21	
0.9	44	0.9	27	0.7	29	0.4	27	0.7	31	0.8	13	0.3	15	
0.7	35	0.7	21	0.7	26	0.4	22	0.6	27	0.7	11	0.2	13	
0.2	9	0.2	6	0.1	3	0.1	5	0.1	4	0.1	2	0.0	2	
0.2	11	0.1	2	0.1	2	0.0	1	0.0	1	0.1	2	0.1	4	
0.3	13	0.2	7	0.1	4	0.5	33	0.8	32	0.3	5	0.7	36	
0.2	9	0.2	5	0.1	4	0.5	29	0.7	31	0.3	5	0.6	32	
0.1	5	0.1	2	0.1	2	0.2	10	0.6	25	0.1	2	0.5	25	
0.1	4	0.1	3	0.1	2	0.3	19	0.1	6	0.2	3	0.1	7	
								0.1	3	0.1	1	0.1	3	
0.1	4	0.1	4	0.1	4	0.2	12	0.2	9	0.2	3	0.2	9	
0.0	2	0.1	4	0.1	4	0.2	11	0.1	5	0.2	3	0.1	8	
0.0	2	0.1	3	0.1	2	0.1	7	0.1	5	0.2	3	0.1	8	
		0.0	1	0.1	2	0.1	4							
										0.1	1	0.0	1	

表 I - 3 館長の性、年齢、専任・兼任別

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟 鶴
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
性	男	99.6 463	100.0 31	100.0 82	100.0 56
	女	0.4 2			
年 齢	30 ～ 39 歳	2.6 12			5.4 3
	40 ～ 49 歳	28.2 131	45.2 14	20.7 17	35.7 20
	50 ～ 59 歳	52.7 245	48.4 15	62.2 51	44.6 25
	60 歳 以 上	15.5 72	6.5 2	15.9 13	14.3 8
	不 明	1.1 5		1.2 1	
専 兼 任 任 ・ 別	専 任	45.4 211	48.4 15	35.4 29	53.6 30
	兼 任	54.6 254	51.6 16	64.6 53	46.4 26
兼通の 任常の 場の 勤務所	計	100.0 254	100.0 16	100.0 53	100.0 26
	勤労青少年ホーム	32.7 83	31.3 5	34.0 18	50.0 13
	勤労青少年ホーム 以 外	67.3 171	68.8 11	66.0 35	50.0 13
勤 勤 労 労 青 青 少 少 年 年 ホ ホーム ム での 数	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
	1 年 未 満	35.3 164	32.3 10	31.7 26	26.8 15
	1 年以上 3 年未満	40.4 188	35.5 11	46.3 38	46.4 26
	3 年以上 5 年未満	15.3 71	25.8 8	18.3 15	10.7 6
	5 年 以 上	8.6 40	6.5 2	3.7 3	16.1 9
	不 明	0.4 2			

及び勤労青少年ホームでの勤続年数

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
98.0 48	100.0 29	97.5 39	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
2.0 1		2.5 1				
2.0 1		7.5 3	3.3 2			5.1 3
34.7 17	31.0 9	32.5 13	21.3 13	21.4 9	31.3 5	23.7 14
44.9 22	41.4 12	50.0 20	63.9 39	47.6 20	43.8 7	57.6 34
16.3 8	27.6 8	7.5 3	9.8 6	31.0 13	25.0 4	11.9 7
2.0 1		2.5 1	1.6 1			1.7 1
49.0 24	55.2 16	57.5 23	60.7 37	42.9 18	31.3 5	23.7 14
51.0 25	44.8 13	42.5 17	39.3 24	57.1 24	68.8 11	76.3 45
100.0 25	100.0 13	100.0 17	100.0 24	100.0 24	100.0 11	100.0 45
48.0 12	38.5 5	23.5 4	29.2 7	37.5 9	27.3 3	15.6 7
52.0 13	61.5 8	76.5 13	70.8 17	62.5 15	72.7 8	84.4 38
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
32.7 16	55.2 16	27.5 11	36.1 22	31.0 13	43.8 7	47.5 28
38.8 19	27.6 8	40.0 16	36.1 22	50.0 21	43.8 7	33.9 20
20.4 10	10.3 3	17.5 7	21.3 13	4.8 2	6.3 1	10.2 6
8.2 4	6.9 2	12.5 5	4.9 3	14.3 6	6.3 1	8.5 5
		2.5 1	1.6 1			

表 I - 4 勤労青少年

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新潟	
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	
ホ ー ム 運 営 委 員 会 の 機 能	有 効 に 機 能 し て い る	25.4 118	25.8 8	29.3 24	26.8 15	
	ま あ ま あ 機 能 し て い る	35.5 165	32.3 10	37.8 31	39.3 22	
	形 式 化 し て い る	23.9 111	32.3 10	25.6 21	25.0 14	
	そ の 他	13.5 63	9.7 3	6.1 5	8.9 5	
運 営 委 員 会 に メ ン バ ー と し て 入 っ て い る か	入 っ て い る	72.3 336	71.0 22	86.6 71	60.7 34	
	入っていないがオブザーバーとして加入している	2.6 12	6.5 2	1.2 1	1.8 1	
	入っておらずオブザーバーとしても参加していない	9.9 46	12.9 4	1.2 1	21.4 12	
	不 明	15.3 71	9.7 3	11.0 9	16.1 9	
昭 和 57 年 度 の 運 営 数 委 員 会 開 催 回 数 例 以 外	定 例	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
		1 回	33.3 155	54.8 17	20.7 17	32.1 18
		2 回	33.8 157	35.5 11	39.0 32	41.1 23
		3 回	10.1 47	3.2 1	19.5 16	14.3 8
		4 回	3.0 14		8.5 7	
		5 回 以 上	1.3 6			1.8 1
		0 回 ・ 不 明	18.5 86	6.5 2	12.2 10	10.7 6
	定 例 以 外	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
		1 回	11.6 54	9.7 3	12.2 10	25.0 14
		2 回	1.9 9		2.4 2	5.4 3
		3 回	1.3 6			1.8 1
		4 回	0.2 1		1.2 1	
		5 回 以 上	0.2 1			
		0 回 ・ 不 明	84.7 394	90.3 28	84.1 69	67.9 38

ホーム運営委員会の状況

南 甲	関 東 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59	
30.6 15	37.9 11	20.0 8	14.8 9	14.3 6	31.3 5	28.8 17	
34.7 17	27.6 8	30.0 12	27.9 17	54.8 23	37.5 6	32.2 19	
24.5 12	31.0 9	32.5 13	14.8 9	23.8 10	25.0 4	15.3 9	
10.2 5	3.4 1	17.5 7	32.8 20	4.8 2	6.3 1	23.7 14	
75.5 37	79.3 23	67.5 27	44.3 27	95.2 40	81.3 13	71.2 42	
2.0 1	3.4 1	5.0 2			6.3 1	5.1 3	
16.3 8	13.8 4	12.5 5	16.4 10		6.3 1	1.7 1	
6.1 3	3.4 1	15.0 6	39.3 24	4.8 2	6.3 1	22.0 13	
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59	
26.5 13	37.9 11	20.0 8	29.5 18	54.8 23	68.8 11	32.2 19	
42.9 21	44.8 13	47.5 19	16.4 10	26.2 11	25.0 4	22.0 13	
10.2 5		7.5 3	8.2 5	4.8 2		11.9 7	
4.1 2	3.4 1		3.3 2			3.4 2	
2.0 1	3.4 1	5.0 2	1.6 1				
14.3 7	10.3 3	20.0 8	41.0 25	14.3 6	6.3 1	30.5 18	
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59	
4.1 2	20.7 6	5.0 2	11.5 7	9.5 4	25.0 4	3.4 2	
4.1 2				2.4 1		1.7 1	
2.0 1	3.4 1		3.3 2	2.4 1			
						1.7 1	
89.8 44	75.9 22	95.0 38	85.2 52	85.7 36	75.0 12	93.2 55	

表 I - 5 昭和58年度中に実施

区 分		計	北海道	東北	北 関 東 新 潟 潟	南 関 東 甲 信
定 期	小 計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49
	1 ～ 4	18.1 84	16.1 5	22.0 18	3.6 2	12.2 6
	5 ～ 9	43.9 204	32.3 10	46.3 38	51.8 29	44.9 22
	10 ～ 14	18.7 87	22.6 7	12.2 10	26.8 15	18.4 9
	15 ～ 19	6.9 32		6.1 5	10.7 6	8.2 4
	20 ～ 24	4.1 19	9.7 3	1.2 1	3.6 2	12.2 6
	25 ～ 29	1.5 7	3.2 1	2.4 2		2.0 1
	30 以 上	2.2 10	3.2 1	1.2 1	3.6 2	
	な し	4.7 22	12.9 4	8.5 7		2.0 1
随 時	小 計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49
	1 ～ 4	46.9 218	51.6 16	39.0 32	39.3 22	44.9 22
	5 ～ 9	11.8 55	16.1 5	15.9 13	16.1 9	12.2 6
	10 ～ 14	3.7 17	6.5 2	6.1 5	1.8 1	2.0 1
	15 ～ 19	0.2 1				
	20 ～ 24	0.2 1			1.8 1	
	25 ～ 29					
	30 以 上	0.2 1				
	な し	37.0 172	25.8 8	39.0 32	41.1 23	40.8 20

及び実施予定の各種講座数

北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
13.8 4	5.0 2	29.5 18	33.3 14	18.8 3	20.3 12
41.4 12	25.0 10	41.0 25	45.2 19	68.8 11	47.5 28
27.6 8	35.0 14	11.5 7	9.5 4	6.3 1	20.3 12
10.3 3	12.5 5	11.5 7		6.3 1	1.7 1
	7.5 3	1.6 1	2.4 1		3.4 2
	5.0 2	1.6 1			
3.4 1	5.0 2		2.4 1		3.4 2
3.4 1	5.0 2	3.3 2	7.1 3		3.4 2
100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
69.0 20	65.0 26	42.6 26	47.6 20	68.8 11	39.0 23
6.9 2	5.0 2	16.4 10	7.1 3	6.3 1	6.8 4
	5.0 2	6.6 4	4.8 2		
					1.7 1
		1.6 1			
24.1 7	25.0 10	32.8 20	40.5 17	25.0 4	52.5 31

表 1-6 人気のあるスポーツ講座

区 分		計	北海道	東北	北 関 東 新 潟	南 関 東 甲 信
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56	100.0 49
卓 球		63.2 294	48.4 15	69.5 57	62.5 35	65.3 32
バ ト ミ ン ト ン		62.2 289	67.7 21	69.5 57	71.4 40	57.1 28
バ レ ー ボ ー ル		39.6 184	41.9 13	46.3 38	46.4 26	32.7 16
テニス	軟 式	23.2 108	38.7 12	26.8 22	14.3 8	12.2 6
	硬 式	42.4 197	19.4 6	45.1 37	62.5 35	49.0 24
バスケットボール		12.3 57	12.9 4	19.5 16	8.9 5	20.4 10
ソ フ ト ボ ー ル		26.5 123	12.9 4	24.4 20	32.1 18	12.2 6
野 球		5.8 27	9.7 3	4.9 4	5.4 3	
空 手		9.2 43	9.7 3	4.9 4	7.1 4	12.2 6
拳 法		6.7 31	6.5 2	2.4 2	7.1 4	10.2 5
柔 道 ・ 剣 道		6.2 29	6.5 2	4.9 4	7.1 4	8.2 4
体 操		6.0 28	3.2 1	2.4 2	3.6 2	8.2 4
そ の 他		20.6 96	32.3 10	17.1 14	25.0 14	26.5 13
無 回 答		5.6 26	3.2 1	1.2 1	5.4 3	2.0 1

(随時開催するものを含む。)

(MA)

北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
58.6 17	55.0 22	55.7 34	66.7 28	93.8 15	66.1 39
65.5 19	57.5 23	39.3 24	54.8 23	87.5 14	67.8 40
48.3 14	32.5 13	23.0 14	26.2 11	68.8 11	47.5 28
13.8 4	25.0 10	13.1 8	31.0 13	31.3 5	33.9 20
34.5 10	55.0 22	49.2 30	33.3 14	31.3 5	23.7 14
10.3 3	15.0 6	9.8 6	4.8 2	6.3 1	6.8 4
48.3 14	35.0 14	23.0 14	16.7 7	75.0 12	23.7 14
17.2 5	2.5 1	9.8 6	2.4 1	12.5 2	3.4 2
3.4 1	5.0 2	8.2 5	16.7 7	25.0 4	11.9 7
6.9 2		14.8 9	4.8 2	6.3 1	6.8 4
3.4 1	10.0 4	8.2 5		6.3 1	6.8 4
10.3 3	15.0 6	3.3 2	4.8 2	12.5 2	6.8 4
17.2 5	27.5 11	24.6 15	7.1 3	12.5 2	15.3 9
	5.0 2	8.2 5	11.9 5		13.6 8

表1-7 スポーツ講座を除く各種講座(随時開催を含む。)中、人気のある講座名

(MA)

区	分	計	北海道	東北	北関東	南関東	東信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
京	計	100.0	465	100.0	82	100.0	56	100.0	40	100.0	42	100.0	59
	道	49.5	230	36.6	30	41.1	23	44.9	22	73.8	45	68.8	11
	選	60.6	282	53.7	44	75.0	42	57.1	28	60.7	37	68.8	11
	理	74.0	344	62.7	21	73.2	41	73.5	36	54.1	33	87.5	14
	物	45.8	213	48.4	15	57.1	32	40.8	20	42.6	26	31.3	5
政	和	26	12	3.2	1	3.7	3	3.6	2	3.3	2	6.3	1
	洋	2.4	11	9.7	3			2.0	1	6.6	4	6.3	1
	艦	14.4	67	6.5	2	17.1	14	8.2	4	22.5	9	18.8	3
	物							6.9	2	29.5	18	9.5	4
	その他(家政)	0.2	1									2.4	1
ダ ン ス	社交ダンス	40.4	188	57.3	47	58.9	33	38.8	19	23.0	14	18.8	3
	フォークダンス	2.6	12	2.4	2			3.4	1	7.5	3		
	ジャズ・スクエアダンス	24.9	116	32.3	10	19.6	11	24.1	7	31.1	19	25.0	4
	日本舞踊	0.9	4	1.2	1							6.3	1
	民舞	0.2	1										
ポ テ ン シ ア	その他のダンス	2.6	12	3.2	1	5.4	3	2.0	1	1.6	1		
	手話	14.8	69	22.0	18	5.4	3	18.4	9	2.5	1	12.5	2
	点字	0.9	4			1.8	1	2.0	1				
	その他のボランティア	4.1	19	9.7	3	1.8	1	2.0	1	7.5	3	6.3	1
	絵画	8.0	37	9.7	3	7.1	4	2.0	1	15.0	6	16.7	7
英 術	七宝焼	5.8	27	9.8	8	5.4	3	4.1	2	3.4	1	9.5	4
	陶芸	6.7	31	9.7	3	12.2	10	8.2	4	6.9	2	2.4	1
	その他の美術	2.2	10	6.5	2	3.6	2	4.1	2	6.5	4	12.5	2
				1.2	1			3.4	1	2.5	1	2.4	1

音	ベ	ン	ド	7.7	36	6.5	2	17.1	14	1.8	1	6.1	3	3.4	1	5.0	2	4.9	3	16.7	7			5.1	3
	ギ	タ	—	4.7	22	3.2	1	3.7	3	5.4	3	8.2	4	10.3	3			8.2	5	2.4	1	6.3	1	1.7	1
	コ	—	ラ	2.6	12	3.2	1	3.7	3	1.8	1	4.1	2					3.3	2					5.1	3
	フ	オ	ク	2.2	10	3.2	1	3.7	3	1.8	1	2.0	1			2.5	1	1.6	1			6.3	1	1.7	1
	民		語	1.1	5			2.4	2					6.9	2	2.5	1								
歌	マ	ン	ド	0.2	1							2.0	1												
	そ	の	他	の	音	義						4.1	2			2.5	1			4.8	2	6.3	1	1.7	1
	書		遺	26.5	123			26.8	22	30.4	17	22.4	11	13.8	4	20.0	8	27.9	17	26.2	11	31.3	5	47.5	28
	英	会	話	10.5	49	12.9	4	4.9	4	8.9	5	12.2	6	17.2	5	10.0	4	21.3	13	11.9	5			5.1	3
	ベ	ン	習	17.8	83	16.1	5	9.8	8	8.9	5	22.4	11	24.1	7	35.0	14	13.1	8	21.4	9	12.5	2	23.7	14
題	提	書	会	1.1	5	3.2	1					2.0	1	3.4	1			1.6	1	2.4	1				
	そ	の	他	の	教	義				1.8	1	6.1	3					1.6	1					1.7	1
	写		頁	3.2	15	3.2	1	2.4	2	7.1	4	4.1	2	6.9	2	7.5	3	1.6	1						
	人	形	劇	1.1	5	6.6	2	2.4	2													6.3	1		
	回	幕	・	符	号			2.4	2	1.8	1	6.1	3							4.8	2	6.3	1		
味	フ	テ	リ	—	デザイン	9.7	3	3.7	3	5.4	3	2.0	1	3.4	1	5.0	2							6.8	4
	ア	マ	チ	ュ	ア	無	縁	1.1	5	3.2	1									2.4	1	6.3	1		
	パ	ー	ナ	ル	コ	ン	ピ	ュ	ー	8.9	5	14.3	7	6.9	2	20.0	8	11.5	7	4.8	2			3.4	2
	詩				吟			1.2	1			2.0	1	6.9	2			3.3	2	2.4	1			3.4	2
	演				劇					1.8	1					5.0	2	3.3	2			6.3	1	1.7	1
そ	の		他	6.9	32	6.5	2	3.7	3	14.3	8	6.1	3	10.3	3	7.5	3	8.2	5	9.5	4			1.7	1

表 1 - 8 特に人気のあるホーム

— 過 去

区 分	計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
開 館 記 念 の 集 い	9.2 43	12.9 4	6.1 5	8.9 5
新 成 人 を 祝 う 会	4.5 21	6.5 2	7.3 6	3.6 2
勤 労 青 少 年 の 日 の 行 事	36.3 169	58.1 18	31.7 26	39.3 22
盆 踊 り 大 会	10.1 47		12.2 10	10.7 6
文 化 祭	41.5 193	45.2 14	39.0 32	41.1 23
ク リ ス マ ス パーティ	36.3 169	19.4 6	36.6 30	37.5 21
ス ポー ツ 対 抗 試 合	38.5 179	35.5 11	42.7 35	41.1 23
ク ラ ブ ・ サークル発表会	5.8 27	3.2 1	4.9 4	3.6 2
ハ イ キ ン グ	10.5 49	12.9 4	7.3 6	23.2 13
キ ャ ン プ 大 会	19.4 90	16.1 5	23.2 19	7.1 4
コ ン サ ー ト	4.3 20	3.2 1	6.1 5	5.4 3
お 茶 会	4.1 19		2.4 2	
他ホームとの交流会	24.3 113	29.0 9	35.4 29	25.0 14
リ ー ダ ー 研 修 会	12.3 57	9.7 3	17.1 14	14.3 8
グ ル ー プ リーダー会議	5.8 27	3.2 1	7.3 6	1.8 1
そ の 他	16.3 76	16.1 5	11.0 9	23.2 13
無 回 答				
計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56

主催行事(各種講座を除く)

1 年 間 ———

(M A)

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
10.2 5	10.3 3	2.5 1	9.8 6	7.1 3	31.3 5	10.2 6
4.1 2			1.6 1	4.8 2	25.0 4	3.4 2
42.9 21	37.9 11	37.5 15	11.5 7	47.6 20	18.8 3	44.1 26
6.1 3	6.9 2	17.5 7	13.1 8	7.1 3	6.3 1	11.9 7
34.7 17	51.7 15	45.0 18	45.9 28	26.2 11	62.5 10	42.4 25
51.0 25	34.5 10	37.5 15	39.3 24	50.0 21	25.0 4	22.0 13
26.5 13	31.0 9	37.5 15	37.7 23	42.9 18	31.3 5	45.8 27
8.2 4	10.3 3	2.5 1	8.2 5	4.8 2	6.3 1	6.8 4
10.2 5	13.8 4	7.5 3	11.5 7	7.1 3	6.3 1	5.1 3
16.3 8	20.7 6	17.5 7	21.3 13	19.0 8	12.5 2	30.5 18
8.2 4				11.9 5	6.3 1	1.7 1
4.1 2	3.4 1	12.5 5	8.2 5	2.4 1	6.3 1	3.4 2
8.2 4	31.0 9	20.0 8	18.0 11	21.4 9	31.3 5	25.4 15
12.2 6	6.9 2	10.0 4	13.1 8	14.3 6	6.3 1	8.5 5
4.1 2	6.9 2	5.0 2	9.8 6	7.1 3		6.8 4
20.4 10	6.9 2	22.5 9	21.3 13	9.5 4	18.8 3	13.6 8
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59

表 1-9-1(1) クラブ・サークル数

(昭和58年11月1日現在)

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
計	(465) 5,435	(31) 362	(82) 915	(56) 531	(49) 801	(29) 264	(40) 420	(61) 882	(42) 466	(16) 160	(59) 634
スポーツに関するもの	(441) 2,203	(29) 132	(78) 358	(54) 225	(45) 357	(26) 72	(39) 164	(59) 406	(39) 177	(16) 56	(56) 246
音楽に関するもの	(372) 992	(25) 56	(63) 145	(42) 96	(38) 169	(26) 67	(33) 71	(50) 137	(36) 124	(14) 30	(45) 97
家政に関するもの	(213) 586	(21) 54	(40) 112	(20) 40	(26) 87	(6) 22	(18) 43	(32) 78	(15) 38	(9) 27	(26) 85
ダンスに関するもの	(346) 528	(24) 38	(70) 100	(46) 65	(35) 60	(16) 23	(30) 50	(39) 64	(32) 48	(11) 15	(43) 65
美術に関するもの	(178) 301	(14) 28	(28) 47	(24) 37	(24) 43	(11) 16	(16) 29	(20) 34	(14) 19	(5) 8	(22) 40
ボランティア活動に 関するもの	(181) 313	(10) 16	(36) 58	(17) 23	(17) 20	(21) 35	(13) 25	(25) 68	(18) 30	(4) 6	(20) 32
その他の	(215) 512	(17) 38	(38) 95	(27) 45	(22) 65	(12) 29	(18) 38	(31) 95	(13) 30	(5) 8	(32) 69

(注) () 内の数字はホーム数である。

表1-9-1(2) クラブ・サークルを構成している実人員

(昭和58年11月1日現在)

区 分	計	北海道	東北	北関東 新潟	南関東 甲信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
計	(5,435) 113,353	(362) 6,342	(915) 17,989	(531) 9,105	(801) 16,328	(264) 3,959	(420) 13,466	(882) 24,435	(466) 7,829	(160) 2,394	(634) 11,506
スポーツに関するもの	(2,203) 56,124	(132) 2,935	(358) 7,125	(225) 4,995	(357) 10,116	(72) 1,448	(164) 7,363	(406) 12,337	(177) 3,456	(66) 1,117	(246) 5,232
音楽に関するもの	(992) 12,486	(56) 527	(145) 2,503	(96) 857	(169) 1,493	(67) 624	(71) 1,162	(137) 2,817	(124) 1,144	(30) 261	(97) 1,098
家政に関するもの	(586) 11,117	(54) 1,094	(112) 1,612	(40) 501	(87) 1,285	(22) 307	(43) 2,136	(78) 1,779	(38) 604	(27) 420	(85) 1,379
ダンスに関するもの	(528) 14,136	(38) 846	(100) 3,197	(65) 1,524	(60) 1,592	(23) 483	(50) 1,287	(64) 2,104	(48) 1,191	(15) 266	(65) 1,546
美術に関するもの	(301) 3,553	(28) 282	(47) 501	(37) 405	(43) 473	(16) 152	(29) 479	(34) 440	(19) 249	(8) 111	(40) 461
ボランティア活動に 関するもの	(313) 7,530	(16) 190	(58) 1,007	(23) 267	(20) 351	(35) 539	(25) 441	(68) 3,537	(30) 566	(6) 144	(32) 488
その他の	(512) 8,407	(38) 468	(95) 2,044	(45) 556	(65) 1,018	(29) 406	(38) 598	(95) 1,421	(30) 619	(8) 75	(69) 1,202

(注) () 内の数字はクラブ・サークル数である。

表 1-10 クラブ・サークル活動

区 分		計	北海道	東北	北関東 新潟
クラブ・サークル数	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
	増やしていきたい	76.3 355	80.6 25	79.3 65	82.1 46
	現状どおり	23.0 107	19.4 6	17.1 14	17.9 10
	減らしたい	0.6 3		3.7 3	
対するホ ンサム のかか わり方	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
	積極的に指導	18.7 87	16.1 5	17.1 14	17.9 10
	アドバイザー又は オブザーバー的	61.5 286	80.6 25	72.0 59	62.5 35
	リーダーから定期的に 報告を受けるだけ	15.5 72		11.0 9	16.1 9
	全くタッチしない	4.1 19	3.2 1		3.6 2
	不明	0.2 1			
クリ ラブ・ダ サー の育 の成	計	100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
	積極的に育成する	50.5 235	64.5 20	57.3 47	50.0 28
	希望すれば育成する	41.3 192	32.3 10	40.2 33	46.4 26
	タッチしない	8.2 38	3.2 1	2.4 2	3.6 2

に対するホームの今後の方針

南 甲	関 東	東 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
49			29	40	61	42	16	59
71.4			75.9	72.5	73.8	71.4	75.0	78.0
35			22	29	45	30	12	46
28.6			24.1	27.5	26.2	28.6	25.0	22.0
14			7	11	16	12	4	13
100.0			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
49			29	40	61	42	16	59
22.4			37.9	5.0	21.3	11.9	31.3	18.6
11			11	2	13	5	5	11
59.2			41.4	50.0	54.1	71.4	50.0	59.3
29			12	20	33	30	8	35
12.2			13.8	40.0	16.4	14.3	18.8	15.3
6			4	16	10	6	3	9
6.1			6.9	2.5	8.2	2.4		6.8
3			2	1	5	1		4
				2.5				
				1				
100.0			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
49			29	40	61	42	16	59
57.1			51.7	30.0	50.8	31.0	62.5	52.5
28			15	12	31	13	10	31
28.6			44.8	55.0	31.1	59.5	37.5	40.7
14			13	22	19	25	6	24
14.3			3.4	15.0	18.0	9.5		6.8
7			1	6	11	4		4

表 I - 11 ホー ム

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
過去 1 年間の うち相談受理	あ る	75.1 354	96.8 30	74.4 61	85.7 48
	な い	23.9 111	3.2 1	25.6 21	14.3 8
相 談 延 件 数 (概数)		9,733	1,086	939	728
相 談 内 容	小 計	100.0 354	100.0 30	100.0 61	100.0 48
	クラブ・サークル活動に 関 する こと	85.6 303	86.7 26	86.9 53	79.2 38
	各種資格免許の取得に 関 する こと	12.4 44	6.7 2	9.8 6	8.3 4
	ホームでの人間関係に 関 する こと	57.3 203	70.0 21	47.5 29	64.6 31
	恋愛・結婚に関すること	63.6 225	50.0 15	59.0 36	77.1 37
	家族の問題に関すること	18.1 64	16.7 5	13.1 8	25.0 12
	離転職に関すること	42.7 151	56.7 17	41.0 25	41.7 20
	進学に関すること	3.7 13		1.6 1	6.3 3
	職場における悩みごと に 関 する こと	50.0 177	60.0 18	39.3 24	47.9 23
	ボランティア活動に 関 する こと	33.6 119	36.7 11	41.0 25	31.3 15
	そ の 他	6.8 24	10.0 3	6.6 4	4.2 2
	不 明	0.3 1		1.6 1	

における相談活動

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
65.3 32	65.5 19	80.0 32	72.1 44	78.6 33	81.3 13	71.2 42
34.7 17	34.5 10	20.0 8	27.9 17	21.4 9	18.8 3	28.8 17
604	462	612	1,463	804	144	2,891
100.0 32	100.0 19	100.0 32	100.0 44	100.0 33	100.0 13	100.0 42
87.5 28	94.7 18	84.4 27	84.1 37	87.9 29	76.9 10	88.1 37
9.4 3	15.8 3	6.3 2	15.9 7	18.2 6	15.4 2	21.4 9
46.9 15	63.2 12	62.5 20	43.2 19	63.6 21	61.5 8	64.3 27
56.3 18	84.2 16	78.1 25	68.2 30	51.5 17	61.5 8	54.8 23
9.4 3	5.3 1	21.9 7	25.0 11	18.2 6	30.8 4	16.7 7
31.3 10	42.1 8	50.0 16	43.2 19	51.5 17	38.5 5	33.3 14
3.1 1	5.3 1		9.1 4	3.0 1		4.8 2
25.0 8	47.4 9	59.4 19	68.2 30	60.6 20	46.2 6	47.6 20
34.4 11	42.1 8	31.3 10	25.0 11	18.2 6	38.5 5	40.5 17
9.4 3	5.3 1		11.4 5	3.0 1	15.4 2	7.1 3

表 I - 12 館長として

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
ホ ー ム の 利 用 促 進	事業主及び事業主団体並びに 地域一般に対するホームのPR の徹底と密接な連携	54.8 255	45.2 14	65.9 54	46.4 26
	ホーム主催の各種講座の充実 とスポーツ大会等の諸行事の 活発化	34.2 159	25.8 8	30.5 25	46.4 26
	クラブ・サークル活動の促進	32.5 151	51.6 16	32.9 27	30.4 17
	勤労青少年のニーズの把握	20.0 93	19.4 6	25.6 21	16.1 9
	適 格 な 講 師 の 確 保	5.4 25		6.1 5	7.1 4
	狭隘なスポーツ施設の改善 並びに他の体育施設の併用	26.0 121	9.7 3	23.2 19	35.7 20
施 設	ホーム利用者のための駐車場の 確保	8.4 39	6.5 2	6.1 5	12.5 7
ホ ー ム の 在 り 方	利用者の自主性促進と指導の 在り方	39.8 185	71.0 22	35.4 29	21.4 12
	制限年齢を越えたホーム 利用者の取り扱い	17.8 83	6.5 2	20.7 17	17.9 10
	ホーム利用時間の在り方	5.4 25	3.2 1	6.1 5	5.4 3
	ホームと地域社会との交流	15.7 73	6.5 2	14.6 12	17.9 10
人 事	ホーム職員の人材確保	23.4 109	35.5 11	14.6 12	19.6 11
	ホーム職員の配置と指導	9.7 45	19.4 6	8.5 7	7.1 4
そ の 他		2.8 13		4.9 4	1.8 1

現在当面している課題

(M A)

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
49.0 24	48.3 14	57.5 23	49.2 30	61.9 26	75.0 12	54.2 32
20.4 10	37.9 11	37.5 15	44.3 27	23.8 10	56.3 9	30.5 18
36.7 18	20.7 6	32.5 13	36.1 22	28.6 12	18.8 3	28.8 17
22.4 11	6.9 2	27.5 11	19.7 12	21.4 9	12.5 2	16.9 10
4.1 2	3.4 1	7.5 3	3.3 2	4.8 2	6.3 1	8.5 5
26.5 13	37.9 11	17.5 7	24.6 15	31.0 13	31.3 5	25.4 15
6.1 3	17.2 5	22.5 9	3.3 2	4.8 2	6.3 1	5.1 3
34.7 17	31.0 9	60.0 24	44.3 27	42.9 18	43.8 7	33.9 20
22.4 11	27.6 8	10.0 4	16.4 10	9.5 4	12.5 2	25.4 15
8.2 4	3.4 1		4.9 3	11.9 5		5.1 3
14.3 7	13.8 4	17.5 7	19.7 12	21.4 9	6.3 1	15.3 9
30.6 15	37.9 11	15.0 6	18.0 11	21.4 9	18.8 3	33.9 20
8.2 4	10.3 3	12.5 5	6.6 4	7.1 3	6.3 1	13.6 8
2.0 1	3.4 1	5.0 2	4.9 3	2.4 1		

表 I - 13 ホームと地域

区 分		計	北海道	東北	北関東 新潟
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82	100.0 56
交流を図っている		89.9 418	96.8 30	87.8 72	91.1 51
交流を図っていない		10.1 47	3.2 1	12.2 10	8.9 5
最も効果があると思われる交流の方法(MA)	市の広報紙(誌)によるホーム主催行事等の呼びかけ	(73.0) 305	(56.7) 17	(72.2) 52	(74.5) 38
	ホームに関するパンフレット、チラシの一般配布	(34.7) 145	(30.0) 9	(43.1) 31	(35.3) 18
	地方新聞、ラジオ、テレビ等、マスメディアによるホームの紹介	(16.3) 68	(23.3) 7	(13.9) 10	(15.7) 8
	文化祭(ホーム祭)、映画、講演会等のホーム主催行事への一般住民の参加	(42.3) 177	(56.7) 17	(38.9) 28	(35.3) 18
	地方祭への共催並びに参加	(13.2) 55	(16.7) 5	(9.7) 7	(19.6) 10
	ホーム利用者有志による各種ボランティア活動の援助	(11.2) 47	(13.3) 4	(12.5) 9	(11.8) 6
	その他	(4.5) 19	(3.3) 1	(1.4) 1	(2.0) 1
	小 計	(100.0) 418	(100.0) 30	(100.0) 72	(100.0) 51

社会との交流の状況

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
89.8 44	89.7 26	92.5 37	90.2 55	85.7 36	87.5 14	89.8 53
10.2 5	10.3 3	7.5 3	9.8 6	14.3 6	12.5 2	10.2 6
(77.3) 34	(69.2) 18	(75.7) 28	(76.4) 42	(83.3) 30	(64.3) 9	(69.8) 37
(31.8) 14	(50.0) 13	(51.4) 19	(21.8) 12	(27.8) 10	(14.3) 2	(32.1) 17
(13.6) 6	(11.5) 3	(10.8) 4	(25.5) 14	(16.7) 6	(14.3) 2	(15.1) 8
(47.7) 21	(42.3) 11	(40.5) 15	(41.8) 23	(38.9) 14	(50.0) 7	(43.4) 23
(6.8) 3	(7.7) 2	(10.8) 4	(9.1) 5	(22.2) 8	(7.1) 1	(18.9) 10
(9.1) 4	(11.5) 3	(10.8) 4	(5.5) 3	(5.6) 2	(35.7) 5	(13.2) 7
(11.4) 5		(8.1) 3	(10.9) 6	(2.8) 1		(1.9) 1
(100.0) 44	(100.0) 26	(100.0) 37	(100.0) 55	(100.0) 36	(100.0) 14	(100.0) 53

表 I - 14 職員の研修

区 分		計	北海道	東北
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82
ホーム指導員資格講習を修了していない職員について昭和59年度と同講習を受講させる予定	あ	32.5 151	32.3 10	36.6 30
	ない	56.2 308	67.7 21	53.4 52
	不明	1.3 6		
受講させない場合の理由が	小 計	100.0 308	100.0 21	100.0 52
	すでに資格講習を受けた職員がいるから	29.5 91	38.1 8	46.2 24
	人手がない	19.8 61	4.8 1	9.6 5
	旅費等予算がない	37.7 116	33.3 7	40.4 21
	その他	12.0 37	19.0 4	3.8 2
	不明	1.0 3	4.8 1	
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82
ホーム指導員資格講習以外にホーム職員として資質向上につながる研修・講習（職員の一般研修を除く。）を受講させる予定	あ	75.9 353	83.9 26	79.3 65
	ない	23.7 110	16.1 5	20.7 17
	不明	0.4 2		
研 究 開 発 ・ 地 意 義 講 習 等 見 習 に 対 (MA)	小 計（受講させる予定がある）	100.0 353	100.0 26	100.0 65
	研修・講習は同一都道府県で行うのがよい	65.2 230	55.4 17	64.6 42
	ブロック単位で行うのがよい	33.4 118	30.8 8	35.4 23
	その他	2.5 9	3.8 1	
受 予 場 所 決 定 合 意 率 が の せ ん 理 由 (MA)	小 計	100.0 110	100.0 5	100.0 17
	人手がない	30.9 34		23.5 4
	旅費等予算がない	59.1 65	50.0 3	76.5 13
	その他	9.1 10	40.0 2	
	不明	0.9 1		

・ 講 習 等 に 関 す る こ と

北 関 東 新 潟	南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
44.6 25	42.9 21	27.6 8	25.0 10	26.2 16	21.4 9	50.0 8	23.7 14
55.4 31	55.1 27	69.0 20	75.0 30	68.9 42	78.6 33	50.0 8	74.6 44
	2.0 1	3.4 1		4.9 3			1.7 1
100.0 31	100.0 27	100.0 20	100.0 30	100.0 42	100.0 33	100.0 8	100.0 44
38.7 12	14.8 4	25.0 5	13.3 4	28.6 12	21.2 7	12.5 1	31.8 14
19.4 6	29.6 8	25.0 5	30.0 9	35.7 15	15.2 5		15.9 7
22.6 7	18.5 5	50.0 10	33.3 10	26.2 11	60.6 20	87.5 7	40.9 18
16.1 5	37.0 10		23.3 7	9.5 4	3.0 1		9.1 4
3.2 1							2.3 1
100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
82.1 46	71.4 35	62.1 18	77.5 31	82.0 50	66.7 28	81.3 13	69.5 41
17.9 10	26.5 13	37.9 11	22.5 9	16.4 10	33.3 14	18.8 3	30.5 18
	2.0 1			1.6 1			
100.0 46	100.0 35	100.0 18	100.0 31	100.0 50	100.0 28	100.0 13	100.0 41
73.9 34	82.9 29	61.1 11	64.5 20	60.0 30	57.1 16	53.8 7	58.5 24
19.6 9	17.1 6	38.9 7	32.3 10	34.0 17	50.0 14	46.2 6	43.9 18
6.5 3	2.9 1		3.2 1	6.0 3			
100.0 10	100.0 13	100.0 11	100.0 9	100.0 10	100.0 14	100.0 3	100.0 18
40.0 4	61.5 8	18.2 2	33.3 3	60.0 6	7.1 1		33.3 6
30.0 3	30.8 4	72.7 8	55.5 5	40.0 4	92.9 13	66.7 2	55.6 10
20.0 2	7.7 1	9.1 1	11.1 1			33.3 1	11.1 2
10.0 1							

表 I - 15 館長のみた現代の勤労青少年の

区 分		計	北海道	東北
計		100.0 465	100.0 31	100.0 82
思 考 性	豊かになった	11.8 55		11.0 9
	乏しくなった	8.8 41	19.4 6	11.0 9
合 理 性	高まった	29.0 135	25.8 8	29.3 24
	低下した	1.5 7		3.7 3
協 調 性	強くなった	13.3 62	12.9 4	12.2 10
	弱くなった	45.6 212	48.4 15	48.8 40
積 極 性	強くなった	7.5 35	3.2 1	12.2 10
	弱くなった	37.0 172	45.2 14	39.0 32
他人に対する思いやり	豊かになった	6.9 32	3.2 1	4.9 4
	乏しくなった	21.7 101	25.8 8	24.4 20
礼 儀	正しくなった	7.5 35	3.2 1	4.9 4
	無作法になった	26.0 121	22.6 7	26.8 22
指 示 ・ 命 令	厭がるようになった	17.2 80	29.0 9	13.4 11
	厭がらなくなった	2.8 13		1.2 1
競 争 意 識	強くなった	3.0 14		4.9 4
	弱くなった	4.9 23		4.9 4
自 立 心	強くなった	11.6 54	6.5 2	8.5 7
	弱くなった	16.6 77	22.6 7	14.6 12
金 銭 感 覚	強くなった	18.5 86	22.6 7	17.1 14
	弱くなった	1.1 5		
そ の 他		1.3 6		2.4 2
不 明		0.6 3	3.2 1	

特徴(MA) -10年ぐらい前と比べて-

北 関 東 新 潟	南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 56	100.0 49	100.0 29	100.0 40	100.0 61	100.0 42	100.0 16	100.0 59
14.3 8	6.1 3	6.9 2	10.0 4	8.2 5	26.2 11	12.5 2	18.6 11
1.8 1	12.2 6	10.3 3	12.5 5	11.5 7	4.8 2	6.3 1	1.7 1
25.0 14	24.5 12	20.7 6	25.0 10	47.5 29	19.0 8	31.3 5	32.2 19
	2.0 1			1.6 1			3.4 2
8.9 5	10.2 5	20.7 6	7.5 3	9.8 6	23.8 10	12.5 2	18.6 11
44.6 25	44.9 22	34.5 10	62.5 25	41.0 25	38.1 16	68.8 11	39.0 23
5.4 3	4.1 2	20.7 6		1.6 1	9.5 4	12.5 2	10.2 6
42.9 24	40.8 20	24.1 7	40.0 16	34.4 21	23.8 10	43.8 7	35.6 21
10.7 6	8.2 4	10.3 3	5.0 2	6.6 4	14.3 6		3.4 2
16.1 9	16.3 8	27.6 8	22.5 9	23.0 14	16.7 7	18.8 3	25.4 15
12.5 7	4.1 2	6.9 2	5.0 2	11.5 7	14.3 6	6.3 1	5.1 3
26.8 15	30.6 15	34.5 10	22.5 9	16.4 10	23.8 10	25.0 4	32.2 19
23.2 13	10.2 5	13.8 4	17.5 7	16.4 10	23.8 10	6.3 1	16.9 10
	4.1 2	6.9 2		1.6 1	9.5 4	6.3 1	3.4 2
7.1 4	2.0 1	3.4 1	2.5 1	1.6 1		6.3 1	1.7 1
8.9 5	8.2 4	10.3 3	7.5 3	4.9 3	2.4 1		
12.5 7	12.2 6	3.4 1	7.5 3	14.8 9	14.3 6	18.8 3	16.9 10
16.1 9	26.5 13	17.2 5	5.0 2	13.1 8	7.1 3	18.8 3	25.4 15
17.9 10	20.4 10	20.7 6	27.5 11	27.9 17	16.7 7	6.3 1	5.1 3
	2.0 1		2.5 1	1.6 1			3.4 2
		3.4 1	5.0 2				1.7 1
			2.5 1		2.4 1		

表 1-16 年齢階級別、館長のみた現代の勤

区 分		計		30 ～ 39 歳	
計		100.0	465	100.0	12
思 考 性	豊 か に な っ た	11.8	55		
	乏 し く な っ た	8.8	41		
合 理 性	高 ま っ た	29.0	135	33.3	4
	低 下 し た	1.5	7		
協 調 性	強 く な っ た	13.3	62		
	弱 く な っ た	45.6	212	75	9
積 極 性	強 く な っ た	7.5	35		
	弱 く な っ た	37.0	172	33.3	4
他人に対する思いやり	豊 か に な っ た	6.9	32	8.3	1
	乏 し く な っ た	21.7	101	16.7	2
礼 儀	正 し く な っ た	7.5	35	16.7	2
	無 作 法 に な っ た	26.0	121	33.3	4
指 示 ・ 命 令	厭 がる よう に な っ た	17.2	80		
	厭 が ら な く な っ た	2.8	13	8.3	1
競 争 意 識	強 く な っ た	3.0	14		
	弱 く な っ た	4.9	23		
自 立 心	強 く な っ た	11.6	54	16.7	2
	弱 く な っ た	16.6	77	8.3	1
金 銭 感 覚	強 く な っ た	18.5	86	33.3	4
	弱 く な っ た	1.1	5		
そ の 他		1.3	6	8.3	1
不 明		0.6	3		

勞青少年の特徴(MA) -10年ぐらい前と比べて-

40 ~ 49		50 ~ 59		60 歳 以 上		不 明	
100.0	131	100.0	245	100.0	72	100.0	5
10.7	14	11.4	28	15.3	11	40.0	2
9.2	12	11.0	27	2.8	2		
31.3	41	29.4	72	23.6	17	20.0	1
0.8	1	1.2	3	4	3		
10.7	14	12.2	30	23.5	7	20.0	1
55.0	72	42.4	104	33.3	24	60.0	3
3.8	5	9.8	24	6.9	5	20.0	1
40.5	53	38.8	95	26.4	19	20.0	1
3.8	5	7.3	18	8.3	6	40.0	2
22.1	29	20.8	51	25.0	18	20.0	1
3.1	4	9.8	24	5.6	4	20.0	1
28.2	37	22.9	56	31.9	23	20.0	1
16.8	22	17.6	43	19.4	14	20.0	1
0.8	1	2.9	7	5.6	4		
4.6	6	2.0	5	4.2	3		
6.1	8	5.3	13	2.8	2		
4.6	6	13.5	33	18.1	13		
24.4	32	15.1	37	9.7	7		
13.0	17	21.2	52	18.1	13		
		1.6	4	1.4	1		
0.8	1	1.2	3	1.4	1		
0.8	1	0.4	1	1.4	1		

表Ⅱ－１ 勤労青少年ホーム指導員の

区 分		計	北海道	東北	北関東 新潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
性	男	91.8 491	97.1 34	92.7 89	97.1 66
	女	8.2 44	2.9 1	7.3 7	2.9 2
年 齢	25 歳 未 満	6.0 32	2.9 1	12.5 12	7.4 5
	25 ～ 29	26.9 144	31.4 11	24.0 23	32.4 22
	30 ～ 34	21.9 117	17.1 6	28.1 27	20.6 14
	35 ～ 39	14.6 78	17.1 6	11.5 11	22.1 15
	40 ～ 44	8.8 47	14.3 5	7.3 7	8.8 6
	45 ～ 49	6.4 34	11.4 4	6.3 6	2.9 2
	50 ～ 54	4.7 25	2.9 1	3.1 3	
	55 歳 以上	10.1 54	2.9 1	5.2 5	5.9 4
	不 明	0.7 4		2.1 2	
専 任、 兼 任 別	専 任	74.0 396	68.6 24	66.7 64	70.6 48
	兼 任	26.0 139	31.4 11	33.3 32	29.4 20
兼通の 任官場 の勤 務合	計	100.0 139	100.0 11	100.0 32	100.0 20
	勤労青少年ホーム	66.9 93	54.5 6	71.9 23	75.0 15
	勤労青少年ホーム以外	33.1 46	45.5 5	28.1 9	25.0 5
ホ ー ム 指 導 員 と し て の 経 験 年 数	計	100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
	1 年 未 満	19.4 104	8.6 3	18.8 18	22.1 15
	1 年 以 上 3 年 未 満	37.9 203	42.9 15	42.0 47	36.8 25
	3 年 以 上 5 年 未 満	22.1 118	25.7 9	17.7 17	23.6 16
	5 年 以 上	20.0 107	22.9 8	13.5 13	16.2 11
不 明		0.6 3		1.0 1	1.5 1

性・年齢・専任・兼任別及び経験年数

南関東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64
93.0 53	76.7 23	93.3 42	90.9 70	91.5 43	68.8 11	93.8 60
7.0 4	23.3 7	6.7 3	9.1 7	8.5 4	31.3 5	6.3 4
3.5 2	6.7 2	11.1 5	5.2 4			1.6 1
28.1 16	30.0 9	24.4 11	28.6 22	25.5 12	25.0 4	21.9 14
24.6 14	16.7 5	24.4 11	32.5 25	12.8 6		14.1 9
21.1 12	20.0 6	13.3 6	11.7 9	8.5 4	12.5 2	10.9 7
7.0 4	10.0 3	4.4 2	9.1 7	14.9 7	6.3 1	7.8 5
5.3 3	3.3 1	4.4 2	5.2 4	8.5 4	12.5 2	9.4 6
3.5 2	3.3 1	6.7 3	2.6 2	2.1 1	12.5 2	15.6 10
7.0 4	10.0 3	11.1 5	5.2 4	25.5 12	31.3 5	17.2 11
				2.1 1		1.6 1
63.2 36	70.0 21	77.8 35	90.9 70	80.9 38	62.5 10	78.1 50
36.8 21	30.0 9	22.2 10	9.1 7	19.1 9	37.5 6	21.9 14
100.0 21	100.0 9	100.0 10	100.0 7	100.0 9	100.0 6	100.0 14
76.2 16	77.8 7	80.0 8	71.4 5	55.6 5	83.3 5	21.4 3
23.8 5	22.2 2	20.0 2	28.6 2	44.4 4	16.7 1	78.6 11
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64
17.5 10	30.0 9	24.4 11	15.6 12	25.5 12	12.5 2	18.8 12
35.1 20	33.3 10	40.0 18	31.2 24	36.2 17	31.3 5	34.4 22
26.3 15	23.3 7	20.0 9	18.2 14	19.1 9	25.0 4	28.1 18
21.1 12	13.3 4	15.6 7	35.1 27	19.1 9	25.0 4	18.8 12
					6.3 1	

表 II - 2 青少年指導

区 分		計	北海道	東 北	北関東 新 潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
勤労青少年 ホーム指導 員資格講習	受 け た	57.9 310	62.9 22	65.6 63	64.7 44
	受 け て い な い	42.1 225	37.1 13	34.4 33	35.3 24
受 講 し た 時 期	計	100.0 310	100.0 22	100.0 63	100.0 44
	昭和50年以前	6.8 21		4.8 3	2.3 1
	50 ～ 54 年	24.8 77	22.7 5	17.5 11	20.5 9
	55 年 以 降	68.4 212	77.3 17	77.8 49	77.3 34
勤労青少年 ホーム指導 員資格以外 の青少年指 導に関する 何かの資格	計	100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
	持 っ て い る	29.0 155	22.9 8	27.1 26	26.5 18
	持 っ て い な い	71.0 388	77.1 27	72.9 70	73.5 50
持 っ て い る 場 合 の 資 格 名	計	100.0 155	100.0 8	100.0 26	100.0 18
	教 員 免 許	48.4 75	62.5 5	57.7 15	27.8 5
	レクリエーション指導者	30.3 47	12.5 1	38.5 10	33.3 6
	キャンプ指導者	12.9 20		11.5 3	5.6 1
	オリエンテーリング 指 導 者	10.3 16		11.5 3	22.2 4
	そ の 他	51.0 79	87.5 7	53.8 14	50.0 9

に 関 する 資 格 の 有 無 等

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64
57.9 33	43.3 13	44.4 20	68.8 53	38.3 18	43.8 7	57.8 37
42.1 24	56.7 17	55.6 25	31.2 24	61.7 29	56.3 9	42.2 27
100.0 33	100.0 13	100.0 20	100.0 53	100.0 18	100.0 7	100.0 37
		5.0 1	20.8 11	5.6 1	28.6 2	5.4 2
30.3 10	23.1 3	30.0 6	28.3 15	27.8 5	14.3 1	32.4 12
69.7 23	76.9 10	65.0 13	50.9 27	66.7 12	57.1 4	62.2 23
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64
21.1 12	30.0 9	33.3 15	36.4 28	29.8 14	31.3 5	31.3 20
78.9 45	70.0 21	66.7 30	63.6 49	70.2 33	68.8 11	68.8 44
100.0 12	100.0 9	100.0 15	100.0 28	100.0 14	100.0 5	100.0 20
58.3 7	33.3 3	40.0 6	46.4 13	57.1 8	60.0 3	50.0 10
8.3 1	22.2 2	26.7 4	42.9 12	21.4 3	20.0 1	35.0 7
	11.1 1	13.3 2	25.0 7	14.3 2	40.0 2	10.0 2
8.3 1	11.1 1	6.7 1	3.6 1	7.1 1	20.0 1	15.0 3
50.0 6	55.6 5	46.7 7	64.3 18	42.9 6	20.0 1	30.0 6

表Ⅱ－３ 青少年指導に関する講習会、研修会、研究会等への

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東	新 潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68	
青少年指導に関する講習会、研修会、研究会等への参加 (過去1年間)	あ る	62.1 332	60.0 21	70.8 68	48.5 33	
	な い	37.9 203	40.0 14	29.2 28	51.5 35	
参 加 し た 回 数	計	100.0 332	100.0 21	100.0 68	100.0 33	
	1 回	45.8 152	57.1 12	45.6 31	45.5 15	
	2 回	23.2 77	23.8 5	14.7 10	33.3 11	
	3 回	14.5 48	14.3 3	20.6 14	9.1 3	
	4 回	5.7 19		13.2 9	9.1 3	
	5 回以上	9.9 33		2.9 2	3.0 1	
	不明	0.9 3	4.8 1	2.9 2		
1 回 の 参 加 日 数	計	100.0 332	100.0 21	100.0 68	100.0 33	
	1 回	23.8 79	14.3 3	25.0 17	27.3 9	
	2 回	47.6 158	52.4 11	48.5 33	48.5 16	
	3 回	6.9 23	4.8 1	5.9 4	6.1 2	
	4 回	3.0 10	4.8 1	2.9 2	3.0 1	
	5 回以上	17.5 58	9.5 2	16.2 11	15.2 5	
	不明	1.2 4	14.3 3	1.5 1		
調査対象者以外にホーム指導員がいるか	計	100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68	
	い る	64.5 345	60.0 21	58.3 56	60.3 41	
	い な い	35.5 190	40.0 14	41.7 40	39.7 27	
ホーム指導員が複数いる場合の役割分担	計	100.0 345	100.0 21	100.0 56	100.0 41	
	役割分担がある	44.6 154	52.4 11	35.7 20	43.9 18	
	はっきりと分かれていないが時と場合により分担する	14.5 50		14.3 8	29.3 12	
	分 担 は な い	40.9 141	47.6 10	50.0 28	26.8 11	

参加状況及びホーム指導員が複数いる場合の役割分担の有無等

南 甲	関 東 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64	
52.6 30	66.7 20	80.0 36	66.2 51	55.3 26	68.8 11	56.3 36	
47.4 27	33.3 10	20.0 9	33.8 26	44.7 21	31.3 5	43.8 28	
100.0 30	100.0 20	100.0 36	100.0 51	100.0 26	100.0 11	100.0 36	
56.7 17	65.0 13	25.0 9	27.5 14	65.4 17	27.3 3	58.3 21	
30.0 9	5.0 1	47.2 17	15.7 8	7.7 2	45.5 5	25.0 9	
10.0 3	30.0 6	13.9 5	7.8 4	11.5 3	27.3 3	11.1 4	
3.3 1		5.6 2	2.0 1	7.7 2		2.8 1	
		8.3 3	47.1 24	7.7 2		2.8 1	
100.0 30	100.0 20	100.0 36	100.0 51	100.0 26	100.0 11	100.0 36	
20.0 6	5.0 1	22.2 8	43.1 22	34.6 9	9.1 1	8.3 3	
53.3 16	65.0 13	55.6 20	13.7 7	42.3 11	63.6 7	66.7 24	
3.3 1	15.0 3	5.6 2	3.9 2	7.7 2	18.2 2	11.1 4	
3.3 1		2.8 1	2.0 1		9.1 1	5.6 2	
20.0 6	15.0 3	13.9 5	37.3 19	15.4 4		8.3 3	
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64	
70.2 40	40.0 12	80.0 36	75.3 58	57.4 27	62.5 10	68.8 44	
29.8 17	60.0 18	20.0 9	24.7 19	42.6 20	37.5 6	31.3 20	
100.0 40	100.0 12	100.0 36	100.0 58	100.0 27	100.0 10	100.0 44	
50.0 20	66.7 8	25.0 9	69.0 40	51.9 14	10.0 1	29.5 13	
5.0 2	8.3 1	22.2 8	15.5 9	11.1 3	10.0 1	13.6 6	
45.0 18	25.0 3	52.8 19	15.5 9	37.0 10	80.0 8	56.8 25	

表Ⅱ－４ 勤労青少年ホーム

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
ホ ム 主 催 行 事	各種講習会、講演会、座談会及び映画、演劇、音楽会等の開催に 関すること	37.4 200	25.7 9	38.5 37	39.7 27
	スポーツ、ハイキング等野外活動 に關すること	30.3 162	31.4 11	25.0 24	36.8 25
	ホーム相互間の交流促進のため、 スポーツ、文化活動の実施に關 すること	28.0 150	34.3 12	34.4 33	16.2 11
	地域社会との交流、親睦のための 行事等の実施に關すること	19.4 104	22.9 8	19.8 19	17.6 12
	新銀学卒ホーム利用者の歓迎、激 励会の開催に關すること	1.9 10	2.9 1	3.1 3	1.5 1
	そ の 他	2.1 11		2.1 2	
	クラブ・サークル活動等、勤労青 少年の自主的な活動に対する各種 の助言・指導に關すること	57.8 309	74.3 26	60.4 58	57.4 39
	勤労青少年の生活相談、職業相談 等に關すること	5.6 30	5.7 2	5.3 6	2.9 2
	施設訪問などの奉仕活動に關する こと	1.9 10	2.9 1	2.1 2	1.5 1
	ホーム利用者相互の親睦、交流に 關すること	52.9 283	48.6 17	46.9 45	48.5 33
ホ ム 利 用 者 に 対 す る 助 言 ・ 指 導 等	ホーム利用者の自主的参加による 機関紙（誌）の発行に關すること	6.7 36		8.3 8	5.9 4
	ホーム利用者に対する各種情報提 供に關すること	6.9 37	11.4 4	2.1 2	7.4 5
	そ の 他	0.7 4	2.9 1		
	投書箱、アンケート等による利用 者のニーズ調べに關すること	4.5 24		4.2 4	5.9 4
	利用者がホームを利用しやすく、 また利用意欲を誘発しうようと、 館内、諸設備等の整備に關すること	36.1 193	31.4 11	34.4 33	47.1 32
	ホームと類似施設との交流促進に 關すること	2.4 13		3.1 3	1.5 1
	そ の 他	1.9 10	5.7 2	1.0 1	2.9 2

指導員の主な活動内容

南 甲	関 東 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64	
50.9 29	30.0 9	31.1 14	46.8 36	38.3 18	6.3 1	31.3 20	
40.4 23	26.7 8	26.7 12	31.2 24	29.8 14	18.8 3	28.1 18	
15.8 9	30.0 9	31.1 14	26.0 20	34.0 16	43.8 7	29.7 19	
19.3 11	26.7 8	17.8 8	14.3 11	25.5 12	25.0 4	17.2 11	
3.5 2	3.3 1			2.1 1		1.6 1	
1.8 1	3.3 1	2.2 1	3.9 3	6.4 3			
56.1 32	56.7 17	53.3 24	49.4 38	53.2 25	43.8 7	67.2 43	
	16.7 5	2.2 1	9.1 7		6.3 1	9.4 6	
1.8 1		4.4 2	3.9 3				
61.4 35	50.0 15	55.6 25	55.8 43	57.4 27	43.8 7	56.3 36	
5.3 3	6.7 2	13.3 6	7.8 6	4.3 2	31.3 5		
5.3 3	13.3 4	8.9 4	9.1 7	4.3 2	12.5 2	6.3 4	
		2.2 1	1.3 1	2.1 1			
8.8 5	3.3 1	2.2 1	2.6 2	6.4 3	12.5 2	3.1 2	
22.8 13	33.3 10	44.4 20	32.5 25	29.8 14	37.5 6	45.3 29	
3.5 2		4.4 2	2.6 2	4.3 2		1.6 1	
1.8 1			1.3 1	2.1 1	12.5 2		

表Ⅱ－５ 勤労青少年ホーム指導員の指導の立場

区	分	計
ホ ー ム 主 催 行 事	各種講習会、講演会、座談会及び映画、演劇、音楽会等の開催に関する事	100.0 200
	スポーツ、ハイキング等野外活動に関する事	100.0 162
	ホーム相互間の交流促進のため、スポーツ、文化活動等の実施に関する事	100.0 150
	地域社会との交流、親睦のための行事等の実施に関する事	100.0 104
	新規学卒ホーム利用者の歓迎、激励会の開催に関する事	100.0 10
	そ の 他	100.0 11
ホ ー ム 利 用 者 に 対 す る 助 言 ・ 指 導 等	クラブ・サークル活動等、勤労青少年の自主的な活動に対する各種の助言・指導に関する事	100.0 309
	勤労青少年の生活相談、職業相談等に関する事	100.0 30
	施設訪問などの奉仕活動に関する事	100.0 10
	ホーム利用者相互の親睦、交流に関する事	100.0 283
	ホーム利用者の自主的参加による機関紙（誌）の発行に関する事	100.0 36
	ホーム利用者に対する各種情報提供に関する事	100.0 37
	そ の 他	100.0 4
そ の 他	投書箱、アンケート等による利用者のニーズ調べに関する事	100.0 24
	利用者がホームを利用しやすく、また利用意欲を誘発するように、館内、諸設備等の整備に関する事	100.0 193
	ホームと類似施設との交流促進に関する事	100.0 13
	そ の 他	100.0 10

(活動への主なかかわり方)別、主な活動内容(MA)

指 揮 的 場 立	助 言 的 場 立	調 整 的 場 立	観 察 的 場 立
54.0 108	19.0 38	22.5 45	4.5 9
40.1 65	44.0 72	12.3 20	3.1 5
36.0 54	36.0 54	24.7 37	3.3 5
31.8 33	40.4 42	25.0 26	2.9 3
50.0 5	50.0 5		
54.5 6	18.2 2	27.3 3	
8.1 25	81.2 251	7.4 23	3.2 10
	93.3 28	6.7 2	
40.0 4	60.0 6		
10.2 29	48.4 137	34.9 99	6.4 18
19.4 7	33.3 12	25.0 9	21.6 8
10.8 4	43.2 16	29.7 11	16.2 6
50.0 2	25.0 1	25.0 1	
33.3 8	4.2 1	20.8 5	41.7 10
36.3 70	11.9 23	42.5 82	9.3 18
	7.7 1	69.2 9	23.0 3
10.1 1	40.0 4	40.0 4	10.0 1

表Ⅱ－６ 今後、ホーム指導員活動の

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東	新 潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68	
ホーム主催行事	ホーム主催の講座、教室の充実	42.8 229	48.6 17	45.8 44	26.5 18	
	ホーム主催のスポーツ大会、作品展等の 行事の活発化	16.8 90	5.7 2	15.6 15	11.8 8	
	そ の 他	1.1 6	2.9 1			
勤労青少年の 主体性の 助長	クラブ・サークル活動の促進	39.6 212	40.0 14	39.6 38	38.2 26	
	リーダーの発掘と育成	43.9 235	28.6 10	43.8 42	57.4 39	
	ホーム利用者による「利用者協議会」 等の組織化又は活性化	26.5 142	34.3 12	31.3 30	27.9 19	
	ホーム利用者の主体性に基いた独自の カラーを持ったホームの活動の推進	29.5 158	37.1 13	30.2 29	35.3 24	
	そ の 他	0.2 1				
交 流 ・ 連 携	勤労青少年福祉員、勤労青少年福祉推進 者等勤労青少年指導者との密接な連携	3.7 20		2.1 2	2.9 2	
	ホーム利用者の育成会、後援会等との 密接な連携	4.7 25	8.6 3	7.3 7	1.5 1	
	ホーム相互間の交流促進	10.3 55	5.7 2	13.5 13	10.3 7	
	ホームと類似施設との交流促進	0.6 3			1.5 1	
	ホームと地域社会との交流	23.6 126	25.7 9	17.7 17	26.5 18	
	そ の 他	0.7 4				
ホームの P R	事業主及び事業主団体へのホーム利用 促進の P R	30.3 162	42.9 15	31.3 30	27.9 19	
	新聞・ラジオ・テレビ等マスメディア の活用	6.7 36	5.7 2	4.2 4	2.9 2	
	そ の 他	1.5 8		1.0 1	1.5 1	
そ の 他	ホーム行事における安全対策等	0.7 4				
	施設、設備等の一部改善等によるホーム の雰囲気づくり	12.5 67	5.7 2	12.5 12	22.1 15	
	そ の 他	1.3 7			4.4 3	

中心としていきたい活動内容（MA）

南 甲	関 東	北	陸	東	海	近	畿	中	国	四	国	九	州
100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
	57		30		45		77		47		16		64
50.9		53.3		31.1		35.1		53.2		43.8		50.0	
	29		16		14		27		25		7		32
24.6		6.7		22.2		15.6		25.5		18.8		18.8	
	14		2		10		12		12		3		12
1.8				4.4		2.6							
	1				2		2						
50.9		46.7		37.8		37.7		40.4		6.3		39.1	
	29		14		17		29		19		1		25
42.1		36.7		42.2		40.3		34.0		50.0		54.7	
	24		11		19		31		16		8		35
21.1		33.3		37.8		20.8		25.5		12.5		18.8	
	12		10		17		16		12		2		12
38.6		20.0		33.3		23.4		23.4		31.3		23.4	
	22		6		15		18		11		5		15
				2.2									
					1								
1.8		10.0		4.4		6.5		6.4		12.5			
	1		3		2		5		3		2		
3.5		6.7		2.2		2.6		4.3		6.3		6.3	
	2		2		1		2		2		1		4
8.8		13.3		8.9		9.1		10.6				12.5	
	5		4		4		7		5				8
				2.2								1.6	
					1								1
22.8		20.0		22.2		31.2		19.1		25.0		25.0	
	13		6		10		24		9		4		16
						3.9		2.1					
							3		1				
15.8		23.3		22.2		41.6		31.9		62.5		23.4	
	9		7		10		32		15		10		15
5.3		13.3		2.2		13.0		6.4		12.5		7.8	
	3		4		1		10		3		2		5
				2.2		2.6		4.3				1.6	
					1		2		2				1
		6.7				2.6							
			2				2						
8.8		6.7		17.8		10.4		8.5		12.5		14.1	
	5		2		8		8		4		2		9
1.8				2.2		1.3						1.6	
	1				1		1						1

表Ⅱ－７ ホーム指導員の

区 分	計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計	100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
ホーム利用者を何とかして増やしたい	53.3 285	57.1 20	49.0 47	57.4 39
予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこたえられない	52.5 281	31.4 11	63.5 61	51.5 35
ホーム利用者の中にうまく溶け込めない	3.2 17	5.7 2	3.1 3	5.9 4
エチケットなど注意すると利用者が減る	2.6 14		5.2 5	1.5 1
講座（教室）が女性向きの内容に偏りがち	43.6 233	28.6 10	37.5 36	50.0 34
クラブ・サークル活動に対する助言・指導等の在り方やその程度等	29.5 158	40.0 14	26.0 25	25.0 17
人間関係を業務とするための心労	20.0 107	31.4 11	18.8 18	17.6 12
勤務の中心が夜間であること	24.5 131	22.9 8	26.0 25	29.4 20
職員数が少ないため、思うような活動ができない	32.1 172	45.7 16	32.3 31	29.4 20
そ の 他	9.9 53	5.7 2	14.6 14	7.4 5
不 明	0.2 1	2.9 1		

職務上の悩み（MA）

南 甲	関 東	信	北	陸	東	海	近	畿	中	国	四	国	九	州
100.0			100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
0	57		30		45		77		47		16		64	
56.1			60.0		46.7		53.2		57.4		50.0		50.0	
32			18		21		41		27		8		32	
47.4			36.7		44.4		57.1		57.4		62.5		54.7	
27			11		20		44		27		10		35	
1.8			6.7						6.4				3.1	
1			2						3				2	
1.8					4.4		2.6		4.3		6.3			
1					2		2		2		1			
43.9			63.3		57.8		36.4		29.8		50.0		51.6	
25			19		26		28		14		8		33	
26.3			26.7		22.2		28.6		44.7		37.5		31.3	
15			8		10		22		21		6		20	
14.0			23.3		22.2		29.9		19.1		6.3		12.5	
8			7		10		23		9		1		8	
26.3			20.0		31.1		20.8		14.9		43.8		20.3	
15			6		14		16		7		7		13	
40.4			40.9		22.2		36.4		21.3		18.8		29.7	
23			12		10		28		10		3		19	
10.5			13.3		8.9		10.4		8.5				9.4	
6			4		4		8		4				6	

表Ⅱ－８ 経験年数別、ホーム指導員の

区 分	計	経験１年未満
計	100.0 535	100.0 104
ホーム利用者を何とかして増やしたい	53.3 285	54.8 58
予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこたえられない	52.5 281	3.8 57
ホーム利用者の中にうまく溶け込めない	3.2 17	3.8 4
エチケットなど注意すると利用者が減る	2.6 14	4.8 5
講座（教室）が女性向きな内容に偏りがち	43.6 233	35.6 37
クラブ・サークル活動に対する助言・指導等の在り方やその程度等	29.5 158	25.0 26
人間関係を業務とするための心労	20.0 107	11.5 12
勤務の中心が夜間であること	24.5 131	26.0 27
職員数が少ないため、思うような活動ができない	32.1 172	39.4 41
そ の 他	9.9 53	7.7 8
不 明	0.2 1	

職務上の悩み（MA）

1 年 以 上 3 年 未 満	3 年 以 上 5 年 未 満	5 年 以 上	不 明
100.0 203	100.0 118	100.0 107	100.0 3
53.7 109	53.4 63	50.5 54	11.1 1
54.7 111	45.8 54	54.2 58	11.1 1
3.4 7	4.2 5	0.9 1	
2.5 5	2.5 3	0.9 1	
44.8 91	45.8 54	46.7 50	11.1 1
32.5 66	29.7 35	27.1 29	22.2 2
19.7 40	28.8 34	19.6 21	
25.1 51	28.8 34	15.0 16	33.3 3
29.6 60	33.1 39	29.0 31	11.1 1
8.9 18	7.6 9	16.8 18	
0.5 1			

表Ⅱ－９ ホーム指導員になって

区 分	計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計	100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
ホーム利用者と打ち解けた雰囲気 で交流しているとき	64.9 347	45.7 16	71.9 69	75.0 51
クラブ・サークル活動、或いはホーム 主催行事等の準備のために、ホーム利 用者が一生懸命に取り組んでいる姿に 触れたとき	55.9 299	60.0 21	52.1 50	54.4 37
登録時に比べてホーム利用者がだんだ ん変化し、成長していることが感じら れたとき	27.3 146	37.1 13	20.8 20	27.9 19
ホームに対する理解ある言葉と声援を おくれたとき	25.2 135	22.9 8	24.0 23	20.6 14
そ の 他	9.5 51	2.9 1	13.5 13	10.3 7
不 明	0.9 5	5.7 2		

よかったと思うとき (MA)

南 関 東 信 甲	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
57	30	45	77	47	16	64
61.4	53.3	71.1	53.2	74.5	68.8	64.1
35	16	32	41	35	11	41
47.4	63.3	60.0	50.6	63.8	68.8	59.4
27	19	27	39	30	11	38
22.8	23.3	31.1	40.3	19.1	12.5	28.1
13	7	14	31	9	2	18
29.8	30.0	20.0	27.3	21.3	31.3	29.7
17	9	9	21	10	5	19
12.3	10.0	2.2	13.0	6.4	12.5	6.3
7	3	1	10	3	2	4
3.5	3.3					
2	1					

表Ⅱ-10 ホーム指導員のみた

— 5年ぐらい前

区 分		計	北 海 道	東 北	北 関 東 新 潟
計		100.0 535	100.0 35	100.0 96	100.0 68
思 考 性	豊かになった	10.8 58	5.7 2	11.5 11	5.9 4
	乏しくなった	10.3 55	20.0 7	6.3 6	10.3 7
合 理 性	高 ま っ た	26.7 143	28.6 10	19.8 19	26.5 18
	低 下 し た	0.9 5	5.7 2	2.1 2	
協 調 性	強 くな っ た	9.5 51	11.4 4	8.3 8	4.4 3
	弱 くな っ た	48.0 257	45.7 16	47.9 46	58.8 40
積 極 性	強 くな っ た	6.2 33	5.7 2	6.3 6	2.9 2
	弱 くな っ た	41.9 224	42.9 15	46.9 45	58.8 40
他人に対する 思 い や り	豊かになった	6.5 35	11.4 4	5.2 5	11.8 8
	乏しくなった	21.3 114	17.1 6	22.9 22	17.6 12
礼 儀	正しくなった	7.5 40	8.6 3	8.3 8	4.4 3
	無作法になった	2.7 111	20.0 7	20.8 20	25.0 17
指 示 ・ 命 令	厭がるようになった	10.8 58	8.6 3	10.4 10	5.9 4
	厭がらなくなった	3.4 18	2.9 1	6.3 6	1.5 1
競 争 意 識	強 くな っ た	4.1 22	2.9 1	3.1 3	2.9 2
	弱 くな っ た	5.4 29	20.0 7	6.3 6	1.5 1
自 立 心	強 くな っ た	8.8 47	2.9 1	7.3 7	7.4 5
	弱 くな っ た	17.6 94	8.6 3	16.7 16	19.1 13
金 銭 感 覚	強 くな っ た	13.3 71	5.7 2	8.3 8	17.6 12
	弱 くな っ た	2.2 12		1.0 1	4.4 3
そ の 他		3.7 20		5.2 5	2.9 2
不 明		2.1 11	5.7 2	4.2 4	

現代の勤労青少年の特徴 (MA)

と比べて —

南 関 東 甲 信	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州
100.0 57	100.0 30	100.0 45	100.0 77	100.0 47	100.0 16	100.0 64
8.8 5	6.7 2	13.3 6	14.3 11	17.0 8	12.5 2	10.9 7
15.8 9	10.0 3	13.3 6	7.8 6	6.4 3	18.8 3	7.8 5
21.1 12	36.7 11	33.3 15	40.3 31	23.4 11	31.3 5	17.2 11
1.8 1						
10.5 6	3.3 1	2.2 1	11.7 9	17.0 8	18.8 3	12.5 8
47.4 27	56.7 17	46.7 21	36.4 28	44.7 21	56.3 9	50.0 32
8.8 5		6.7 3	7.8 6	6.4 3	6.3 1	7.8 5
38.6 22	50.0 15	42.2 19	33.8 26	29.8 14	25.0 4	37.5 24
1.8 1	6.7 2	4.4 2	7.8 6	6.4 3	6.3 1	4.7 3
15.8 9	30.0 9	20.0 9	18.2 14	21.3 10	37.5 6	26.6 17
10.5 6	3.3 1	4.4 2	10.4 8	6.4 3	12.5 2	6.3 4
12.3 7	20.0 6	22.2 10	22.1 17	21.3 10	6.3 1	25.0 16
1.8 1	20.0 6	8.9 4	11.7 9	23.4 11	12.5 2	12.5 8
5.3 3	3.3 1	6.7 3		2.1 1		3.1 2
1.8 1			6.5 5	8.5 4		9.4 6
7.0 4		6.7 3	5.2 4	2.1 1	6.3 1	3.1 2
10.5 6	3.3 1	8.9 4	11.7 9	10.6 5	6.3 1	12.5 8
26.3 15	13.3 4	17.8 8	19.5 15	12.8 6	18.8 3	17.2 11
12.3 7	10.0 3	17.8 8	16.9 13	14.9 7	12.5 2	14.1 9
3.5 2	3.3 1		2.6 2		6.3 1	3.1 2
1.8 1	3.3 1	8.9 4	2.6 2			7.8 5
3.5 2				4.3 2		1.6 1

表Ⅱ-11 年齢階級別、ホーム指導員のみた
— 5年ぐらい前

区 分		計	25歳未満	25～29	30～34
計		100.0 535	100.0 32	100.0 144	100.0 117
思 考 性	豊かになった	10.8 58	9.4 3	8.3 12	10.3 12
	乏しくなった	10.3 55		12.5 18	12.0 14
合 理 性	高 ま っ た	26.7 143	15.6 5	29.9 43	32.5 38
	低 下 し た	0.9 5		1.4 2	0.9 1
協 調 性	強 くな っ た	9.5 51	3.1 1	6.3 9	4.3 5
	弱 くな っ た	48.0 257	31.3 10	49.3 71	49.6 58
積 極 性	強 くな っ た	6.2 33	6.3 2	2.8 4	6.0 7
	弱 くな っ た	41.9 224	46.9 15	52.8 76	46.2 54
他人に対する 思 い や り	豊かになった	6.5 35	6.3 2	3.5 5	4.3 5
	乏しくなった	21.3 114	12.5 4	21.5 31	20.5 24
礼 儀	正しくなった	7.5 40		4.9 7	4.3 5
	無作法になった	20.7 111	18.8 6	19.4 28	28.2 33
指 示 ・ 命 令	厭がるようになった	10.8 58	18.8 6	6.3 9	9.4 11
	厭がらなくなった	3.4 18	3.1 1	2.1 3	
競 争 意 識	強 くな っ た	4.1 22		5.6 8	3.4 4
	弱 くな っ た	5.4 29	12.5 4	6.9 10	5.1 6
自 立 心	強 くな っ た	8.8 47	3.1 1	6.3 9	9.4 11
	弱 くな っ た	17.6 94	21.9 7	18.1 26	18.8 22
金 銭 感 覚	強 くな っ た	13.3 71	3.1 1	10.4 15	13.7 15
	弱 くな っ た	2.2 12	3.1 1	3.5 5	2.6 3
そ の 他		3.7 20	12.5 4	5.6 8	0.9 1
不 明		2.1 11	6.3 2	3.5 5	0.9 1

現代の勤労青少年の特徴（MA）

と比べて —

35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 歳以上	不 明
100.0 78	100.0 47	100.0 34	100.0 25	100.0 54	100.0 4
10.3 8	10.6 5	17.6 6	4.0 1	20.4 11	
9.0 7	14.9 7	11.8 4	4.0 1	5.6 3	25.0 1
28.2 22	27.7 13	17.6 6	24.0 6	14.8 8	50.0 2
	2.1 1			1.9 1	
5.4 4	12.8 6	20.6 7	24.0 6	24.1 13	
61.5 48	53.2 25	50.0 17	24.0 6	38.9 21	25.0 1
5.1 4	2.1 1	11.8 4	16.0 4	13.0 7	
38.5 30	34.0 16	32.4 11	28.0 7	25.9 14	25.0 1
6.4 5	10.6 5	2.9 1	4.0 1	20.4 11	
24.4 19	17.0 8	32.4 11	20.0 5	22.2 12	
7.7 6	4.3 2	26.5 9	8.0 2	16.7 9	
23.1 18	23.4 11	8.8 3	24.0 6	9.3 5	25.0 1
12.8 10	8.5 4	8.8 3	16.0 4	20.4 11	
2.6 2	4.3 2	2.9 1	12.0 3	11.1 6	
3.8 3		5.9 2	4.0 1	7.4 4	
3.8 3	4.3 2	2.9 1	4.0 1	3.7 2	
5.1 4	10.6 5	8.8 3	16.0 4	14.8 8	50.0 2
21.8 17	25.5 12	11.8 4	8.0 2	7.4 4	
15.4 12	21.3 10	8.8 3	16.0 4	16.7 9	25.0 1
	2.1 1			3.7 2	
1.3 1	4.3 2	8.8 3	4.0 1		
1.3 1			4.0 1	1.9 1	

勤労青少年指導等に関する実態調査

一 勤労青少年ホーム館長・勤労青少年ホーム指導員活動一

〔勤労青少年ホーム館長票〕

この調査票に記入された事項については、統計目的の
的に使ったり、他に漏らしたりすることはありませんか。
また、空欄に必要事項を記入してください。

秘

労働省

調査年度	勤労青少年ホーム番号

記入上の注意

- (1) 館長自身を別記入ください。
(2) 原則として昭和58年1月1日現在について記入してください。
(3) 特記とわれない限り、あてはまる各表1つが○印をつけてください。
また、空欄に必要事項を記入してください。
(4) *印は記入しないでください。

1 勤労青少年ホームのアウトラインに関すること

例： 勤労青少年ホーム（以下「ホーム」という。）の名称及び所在地
並びにホーム所在地の人口、勤労青少年数（15～24歳）及
び主な産業をお知らせします。

ホームの正式名称	電話（ ）
所在地	
ホーム所在地の人口	
同上人口中、 勤労青少年数	
同市町村の 主な産業	

(注) 広域圏による設置の場合に限り、広域圏に関する町村「人口」、勤
労青少年人口、「主な産業」を記入し、欄内に「広域圏」と明記し
ます。「府立」、「県立」の場合はホーム所在地について記入します。

例2 貴ホームの職員数をお知らせします。（館長を除く）

勤労形態	合計	うち、ホーム指導員（注）				うちホーム指導員費 協賛費補助金数
		計	男	女		
計	内	内	内	内	内	内
常勤	専任					
	兼任					
非常勤	専任					
	兼任					

(注) 日雇、主として「ホーム利用者に対する相談及び指導」の業務を担
当する者で「勤労青少年ホーム指導員」として扱っている職員を含み
ます。

例3 貴ホームの登録者数（11月1日現在）、利用者数（昭和58年
1月～10月末までの延数）をお知らせします。

年 齢	登録者数			利用者数（延）		
	計	男	女	計	男	女
計	内	内	内	内	内	内
15歳以上						
20歳未満						
20歳以上						
25歳未満						
25歳以上						

利用者数計	延	内
ホーム	各種講座	
主催	その他の行事	
団体	クラブ活動	
利用	サークル	
	その他の活動	
個別利用		

2 館長自身に関すること

例4-1) 性、年齢、専任、兼任別及び勤続年数（就業としての）をお
知らせします。

性	年齢	専任	兼任	ホームでの勤続年数			
				1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上
男	1	2	3	1	2	3	4
女	1	2	3	1	2	3	4

*兼任役員及び過去の勤務の場所をお知らせします。

兼 任 役 職 名	過去の勤務の場所
（具体的に記入してください。）	ホー ム ホーム以外
	1 2

例5 館長になれる前の役職をお知らせします。

所 属 部 課 名	役 職 名

例6 ホーム指導員資格講習を受けたことがありますか。

あ る	1	受講年月	年 月
な い	2		

3 ホームの運営に関すること

例7 ホーム運営委員会についてお知らせします。

形 式	ま あ ま あ	準 式 化 し て い る	そ の 他
継続している	継続している		
1	2	3	4

（具体的に記入してください。）

例8 運営委員会メンバーとしてホーム利用者が入っていますか。

入 っ て い る	入 っ て い な い が、 オブザーバーとして 参加している	入 っ て お ら ず オブ ザーバーとしても 参加していない
1	2	3

例9 昭和57年度の運営委員会開催回数をお知らせします。

計	定 例	定例以外
回	回	回

問9 相関係数について記述をします。

過去1年間に對してホームでは(館長を含めて)劇団青少年から謝辞を受けられたことがあります。

[illegible]

（ ）の中はその単位を相対件数の多い順に1、2、3……の番号で入れてください。）

選 抜 内 容 の 種 類	□印欄	順 位
クラブ・サークル活動に関する事	1	()
各種資格取得の取得に関する事	2	()
ホームでの人間関係に関する事	3	()
恋愛・結婚に関する事	4	()
家族の問題に関する事	5	()
アルバイトに関する事	6	()
進学に関する事	7	()
就職における悩みごとに関する事	8	()
ボランティア活動に関する事	9	()
その他(具体的な記述に入ってください。)	10	()

問(19-12) 館長として現在当選しておられるホーネの選言等に関する疑問についてお尋ねします。

(在剧中他和女主角李麗雲人物造型对比于《杜丝》)。

ホーム利用促進	事業主及び事業主団体並びに地域一般に対するホームのP・Vの施設と整備の誘導	1
	ホーム主催の各種講座の立案とスポーツ大会等の運営の所任化	2
	クラブ・サークル活動の促進	3
	難習者少年のニーズの把握	4
	適習者講師の招致	5
施設	狭域内スポーツ施設の改善並びに他の体育施設の活用	6
	ホーム利用者のための駐車場確保	7
ホームの在り方	利用者の自主性意識と指導の在り方	8
	制服活動と趣きたホーム利用者の取り入れ	9
	ホーム利用時間の在り方	10
	ホームと地域社会との交流	11
人財	ホーム職員の人財確保	12
	ホーム職員の配置と指導	13
その他	その他(具体的に記入してください。)	14

—(2) 「建設社会との交差」について改めてお尋ねします。

書中一部分は結構社会学的な言葉を間違って使われている。

固まっている	固っていない
1	2

● どのような方法をとって行われますか。

（次の中から最も有効と思われるものを3つまで選んで○印をつけてください。）

市内の無線（聴）によるホーム主催行事等の呼びかけ	1
ホームに関するパンフレット、チラシの一般配布	2
地方新聞、ラジオ、テレビ等、マスメディアによるホームの紹介	3
文化祭（ホーム祭）、映画、講演会等のホーム主催行事への一般市民の参加	4
地方間への派遣及び来訪	5
ホーム利用者をめぐる各種ボランティア活動の奨励	6
その他（具体的に記入してください。）	7

IV その他 他

問：1 貴員の研修・講習等についてお尋ねします。

一(1) ホーム指導員資格講習を修了していない職員について昭和59年度の実績は幾程度ありますか。

あ	さ	た	い
い		き	

上野由紀

すでに普通 講習を受けた 職員が いるかも	人手がない	既 登 考 予算がない	その他具体的に記入してく ださい。)
1	2	3	4

② 同1より一部の講習以外にホーム職員として實質上につながらず研修・講習（職員の一統研修を除く。）を受講せざる予定がありますか。

a	b	x_1	y_1
c	d	x_2	y_2

→その場合の研修・講習は
どのように行えばよいで
すか。

【附註】

同一製造 群集で行 うのがよ い	ブロック 単位で行 うのがよ い	その他(具体的に記 述してください。) []
1	2	3

【理由】

人 平 均 な い	概 算 額 予 算 が な い	その他（具体的に記 入してください。） []
1	2	3

問12 10年ぐらい前と比べて、現在の勤労青少年の特徴と恐おれ
る点を5つ挙げて下さい。

(3つまで選んで○印をつけてください。)

思 考 性	豊かになった	1
	乏しくなった	2
合 理 性	高まった	3
	低下した	4
協 調 性	強くなった	5
	弱くなった	6
機 能 性	強くなった	7
	弱くなった	8
他人に対する思いやり	豊かになった	9
	乏しくなった	10
礼 儀	正しくなった	11
	無作法になった	12
指 示 ・ 命 令	順がもようになった	13
	順がらなくなった	14
競 争 意 識	強くなった	15
	弱くなった	16
自 立 心	強くなった	17
	弱くなった	18
金 銭 感 覚	強くなった	19
	弱くなった	20
その他(具体的に記入してください。)		21

問13 得業のホームの在り方(要望)について館員としての御意見を
お聞かせください。

(記入欄)

勤労青少年指導等に関する実態調査

一 勤労青少年ホーム館長・勤労青少年ホーム指導員活動一

〔勤労青少年ホーム指導員票〕

秘

労働官

都道府県 番号	勤労青少年 ホーム番号	館長 番号

記入上の注意

- (1) 原則として昭和55年1月1日現在について記入してください。
 (2) 特にごとわりのない限り、当てはまるものと上つだけ○印をつけてください。
 また、空欄に必要事項を記入してください。
 (3) ※印は記入しないでください。

I あなた自身に関すること

問1 性、年齢、専任、兼任及びホーム指導員としての経験年数を記入します。

性	年齢	専任、兼任	ホーム指導員としての経験年数(注)			
			1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上
男		専任	1	2	3	4
女		兼任	1	2	3	4

(注) 「ホーム指導員としての経験年数」……ホーム指導員としての年数をいふ。2年以上ホーム指導員として勤務した場合だけはその年数を過算します。

兼任役職名	通常の勤務の場所
(具体的に記入してください。)	ホーム ホーム以外
	1 2

問2-1 あなたは労働者が実施している勤労青少年ホーム指導員養成講習を受けられましたか。

受けた	1	→ 受講年月	年 月
受けていない	2		

→ ② 青少年の指導に関する何かその他の資格を保持されていますか。

持っている	1	持っていない	2
-------	---	--------	---

資格名	持っている	持っていない
教員免許	1	2
シニアリレーション指導員	1	2
キャンプ指導員	1	2
オリエンテーリング指導員	1	2
その他(具体的に記入してください。)		
	1	2

問3 あなたは、過去1年間のうち、青少年指導に関する講習会、研究会、研究会等どんなことでも可)に参加されたことがありますか。

あ	な	い
1	2	

→ 参加した回数

→ その内容(複数の場合はその代表的なもの)を記入してください。

(注) 出

(具体的に記入してください。)

実施主体名	
講習会等の名称	
参加回数	

問4 ホームには、あなた以外のホーム指導員がいられますか。(注)

い	る	な	い
1	2		

(注) あなた以外のホーム指導員がいか否かの判断は館長殿の問3の「ホーム指導員数」により行うことができます。

→ ホーム指導員同士の間で役割分担(例えば講義担当、オタク・マール担当等)がありますか。

役割分担がある	はっきりと分かれていないが時と場合により分担する	分担はない
1	2	3

→ どんな分担内容ですか。 → 例えどんな場合ですか。

(具体的に記入してください。)

(具体的に記入してください。)

問1-1) ホーム推進員として、あなたは具体的にどんな内容の活動をしておられますか。
(ここ1年ぐわいの間で最もウエイトの大きい活動内容と思われるものを3つまで選んで○印をつけてください。)

ホーム推進員	市議会、議会、協議会及び映画、演劇、音楽会等の開催に関すること	1
	スポーツ、ハイキング等野外活動に関すること	2
	ホーム相互間の交流促進のため、スポーツ、文化活動等の実施に関すること	3
	地域社会との交流、親睦のための行事等の実施に関すること	4
	新緑草草ホーム利用者の歓迎、修学旅行の開催に関すること	5
その他	その他	6
	クラブ・サークル活動等、勤労青少年の自主的な活動に対する各種の助言・指導に関すること	7
	勤労青少年の生活相談、職業相談等に関すること	8
	施設訪問などの奉仕活動に関すること	9
	ホーム利用者相互の親睦、交流に関すること	10
ホーム利用者に対する助言・指導	ホーム利用者の自主的参加による機関紙(誌)の発行に関すること	11
	ホーム利用者に対する各種情報提供に関すること	12
	その他	13
	投票用、アンケート等による利用者のニーズ調査に関すること	14
	利用者がホームを利用しやすく、また利用意欲を誘発しようとして、館内、施設設備等の整備に関すること	15
その他	ホームと地域社会との交流促進に関すること	16
	その他(具体的に記入してください。)	17

→問1-1)で○印をつけた活動についてホーム推進員としてどのような立場(主ながらウエイト)をとっておられますか。
(○印をつけた番号を当てはまる欄に記入してください。)

座 席 目 的 主 場	問1-1)の番号記入欄
指 導 的 立 場	
助 言 的 立 場	
調 整 的 立 場	
観 望 的 立 場	

問2 あなたのらみて、今後のホーム推進員としての活動の中心は、次のどれにあると思われますか。
(申しと思われるものを3つまで選んで○印をつけてください。)

ホーム推進員	ホーム主催の講座、教室の充実	1
	ホーム主催のスポーツ大会、作品展等の行事の活性化	2
	その他	3
	クラブ・サークル活動の促進	4
	リーダーの発掘と育成	5
勤労青少年の主体性の助成	ホーム利用者による「利用者協議会」等の組織化又は活性化	6
	ホーム利用者の主体性に基いた独自のカラーを持ったホームの活動の推進	7
	その他	8
	勤労青少年福祉、勤労青少年福祉推進者等勤労青少年推進者との密接な連携	9
	ホーム利用者の育成会、協議会等との密接な連携	10
交流	ホーム相互間の交流促進	11
	ホームと類似施設との交流促進	12
	ホームと地域社会との交流	13
	その他	14
	事業主及び事業主団体へのホーム利用促進の呼びかけ	15
ホームの発展	新聞・ラジオ・テレビ等マスメディアの活用	16
	その他	17
	ホーム行事における安全対策等	18
	施設、設備等の一部改修等によるホームの環境整備	19
	その他(具体的に記入してください。)	20

問7 ホーム指導員としての経験上の悩みをお聞かせください。

(特に大きいものを3つまで選んで○印をつけてください。)

ホーム利用者を何としかして嫌わしい	1
予算及び施設等の制約上、ホーム利用者の要望にこたえられない	2
ホーム利用者の中よりうまく駆け込めない	3
エタウツなど注意すると利用者が減る	4
調音(教員)が女性向きな内容に偏りがち	5
クラブ・サークル活動に対する指導・指導者の在り方やその態度等	6
人間関係を築くための心労	7
教員の中心が宿題であること	8
職員数が少ないため、思うような活動ができない	9
その他(具体的に記入してください。)	10

問8 ホーム指導員になってよかったと思うことをお聞かせください。

(3つまで選んで○印をつけてください。)

ホーム利用者と打ち解けた雰囲気や交流しているとき	1
クラブ・サークル活動、或いはホーム主催行事等の準備のために、ホーム利用者が一生懸命に取り組んでいる姿に触れたとき	2
登壇時と比べてホーム利用者がだんだん変化し、成長していることが感じられたとき	3
ホームに対する理解ある言葉や声をおくれたとき	4
その他(具体的に記入してください。)	5

問9 その他

問9 5年ぐらい前と比べて、現在の動労青少年の特徴と思われる点を知らせてください。

(3つまで選んで○印をつけてください。)

思 考 性	豊 か に な っ た	1
	足 し く な っ た	2
合 理 性	馬 ま っ た	3
	低 下 し た	4
協 調 性	強 く な っ た	5
	弱 く な っ た	6
順 服 性	強 く な っ た	7
	弱 く な っ た	8
他 人 対 する 思 い や り	豊 か に な っ た	9
	乏 し く な っ た	10
礼 儀	正 し く な っ た	11
	無 作 風 に な っ た	12
指 示 ・ 命 令	服 従 よう に な っ た	13
	服 従 が な く な っ た	14
群 衆 意 識	強 く な っ た	15
	弱 く な っ た	16
目 立 心	強 く な っ た	17
	弱 く な っ た	18
金 銭 感 覚	強 く な っ た	19
	弱 く な っ た	20
その他(具体的に記入してください。)		21

問10 ホーム指導員として日ごろ感じておられること、また、ホームに就ける指導員の今後の在り方等、どんなことでもよいのでお知らせをお願いします。

(記入欄)

GAa1/1

8B-2-85



女性と仕事の未来館



00765344